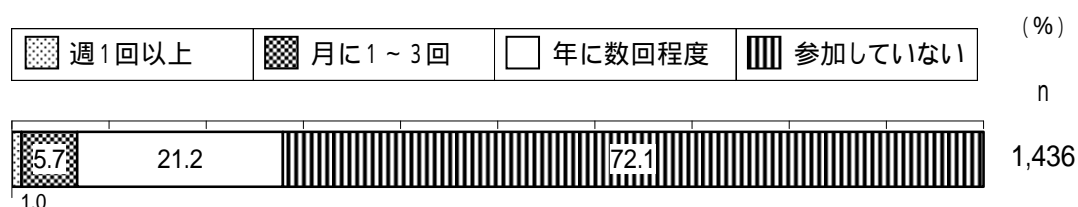


4. 地域力と行政が連携した活力あるまちづくり

(1) 自治会・町会などの会合や行事への参加状況

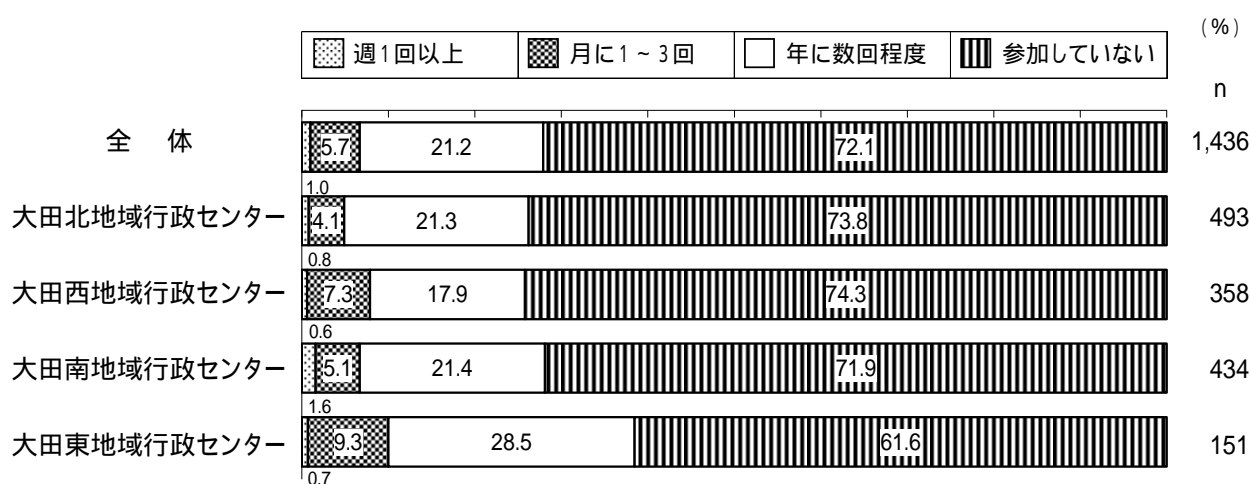
(全員の方に)

問 17. あなたは、現在お住まいの地域で、自治会・町会などの会合や行事にどの程度参加しましたか。婦人会、老人会、子ども会、青年団などの活動を含みます。(1つだけ)



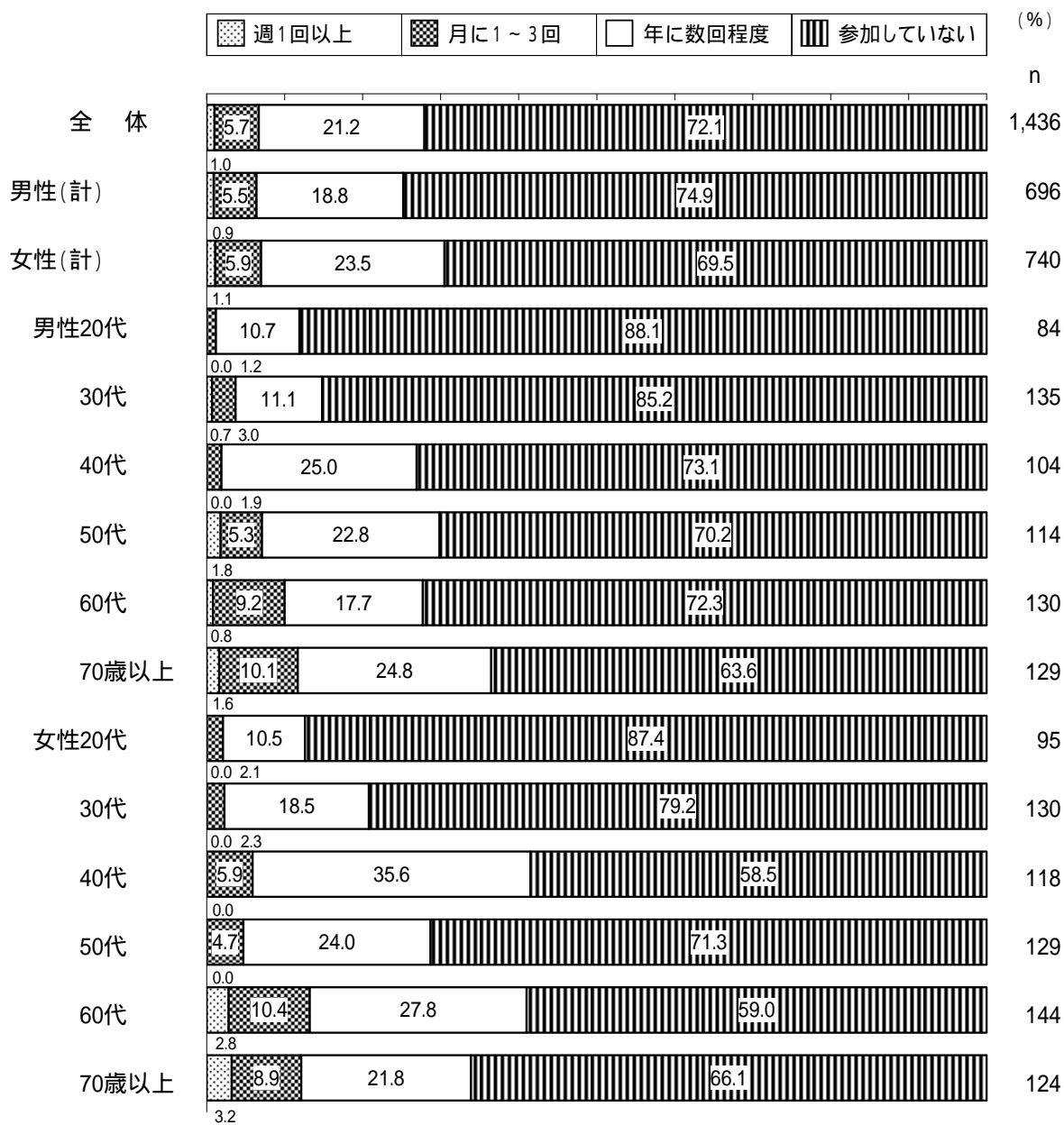
・全体で見ると、「参加していない」(72.1%)が7割を超え特に高く、次いで「年に数回程度」(21.2%)、「月に1~3回」(5.7%)、「週1回以上」(1.0%)の順となっている。

[自治会・町会などの会合や行事への参加状況 - 地域行政センター管内別]



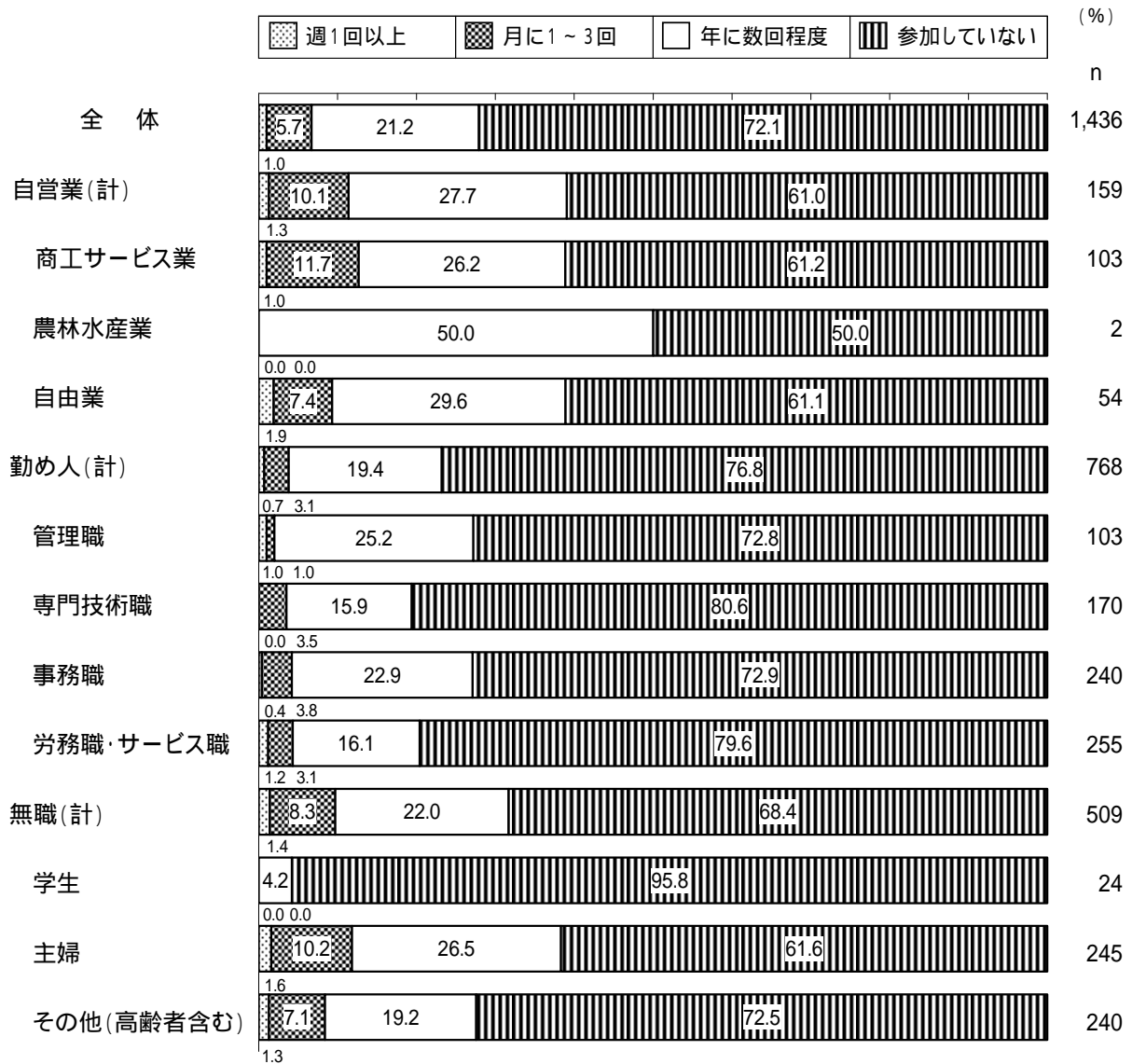
・地域行政センター管内別にみると、「年に数回程度」では大田東地域行政センター管内で3割近く、「参加していない」では大田東地域行政センター管内を除いた全ての管内において7割を超えている。

[自治会・町会などの会合や行事への参加状況 - 性 / 年代別]



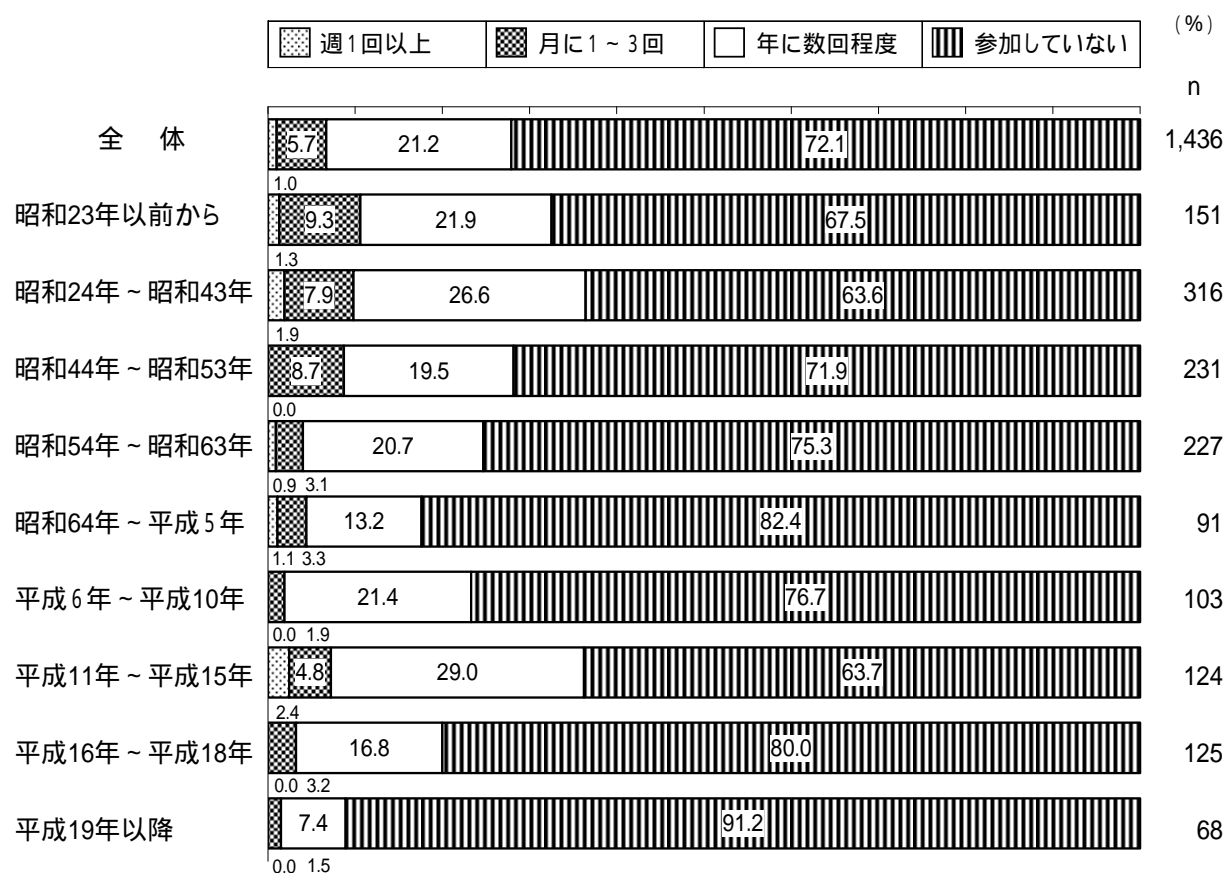
- ・性別にみると、「参加していない」では男性が女性より 5.4 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「年に数回程度」では女性 40 代で 3 割半ばと他の年代と比べて高くなっている。「参加していない」では男性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の 20 代と 30 代では 8 割半ばから 9 割近くとなっている。また、「参加していない」は女性 20 代でも 9 割近くと高くなっている。

[自治会・町会などの会合や行事への参加状況 - 職業別]



・職業別にみると、「月に1～3回」では商工サービス業と主婦で1割を超え他の職業と比べてやや高くなっている。「参加していない」では『勤め人(計)』で8割近くと高く、そのうち専門技術職と労務職・サービス職では8割前後となっている。また、「参加していない」は学生で9割半ばとなっている。

[自治会・町会などの会合や行事への参加状況 - 居住開始時期別]

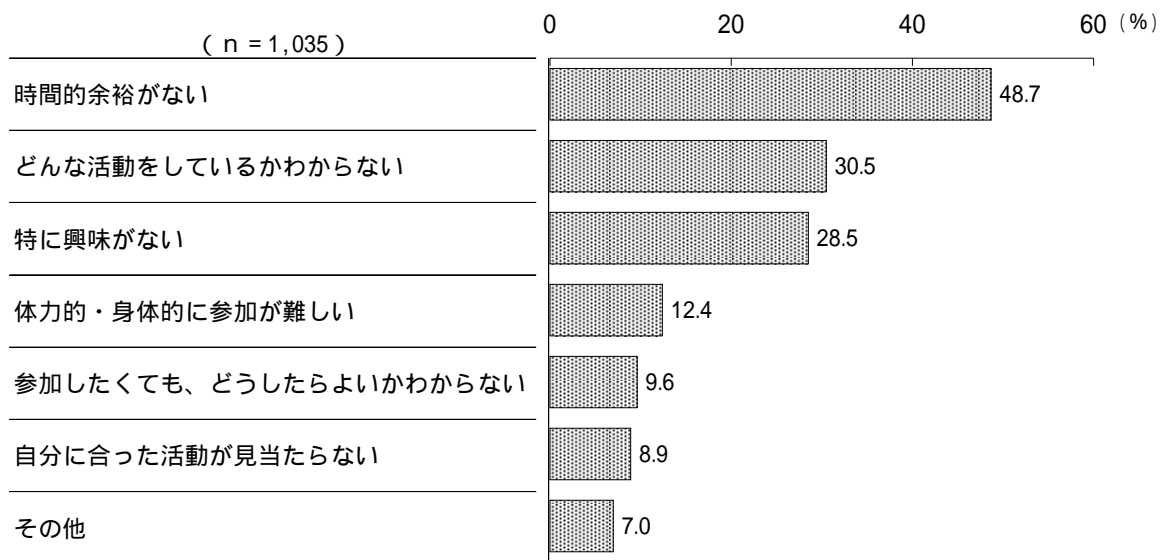


- ・居住開始時期別にみると、「参加していない」では平成19年以降に居住を開始した人で9割を超えている。

(2) 地域活動に参加していない理由

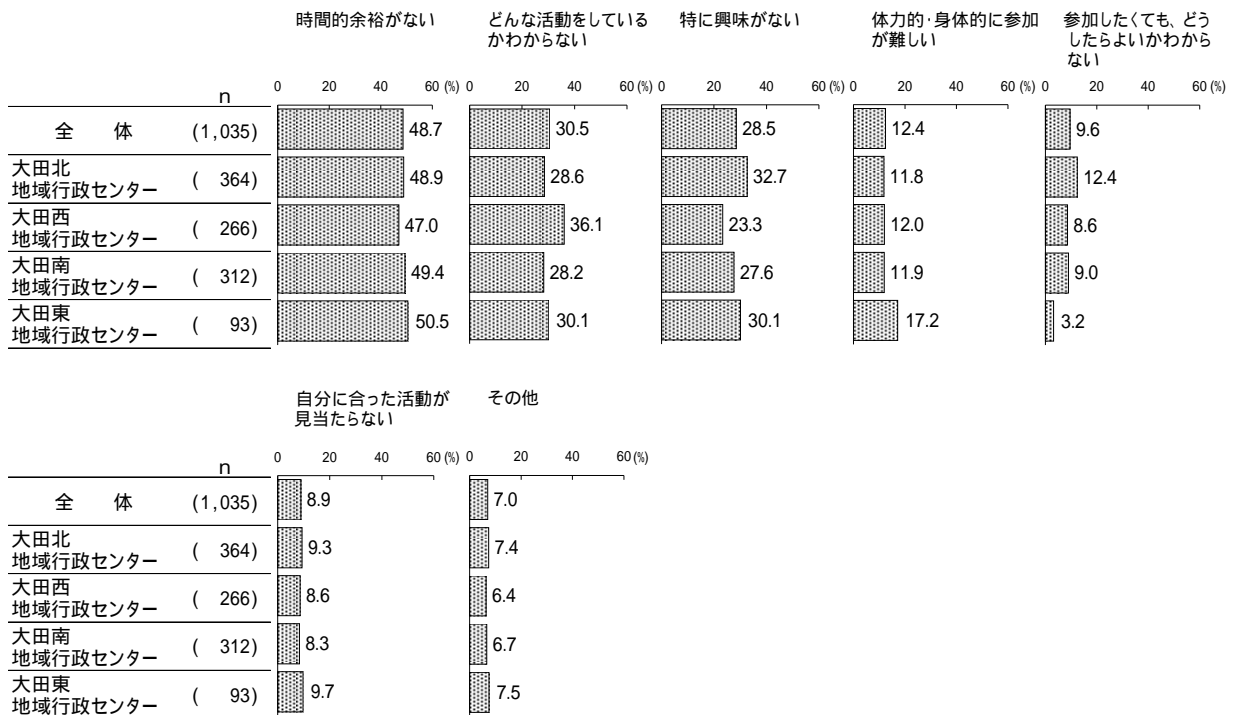
(問17で「4 参加していない」と回答した方に)

問17-1. 地域活動に参加していない理由は次のどれですか。(いくつでも)



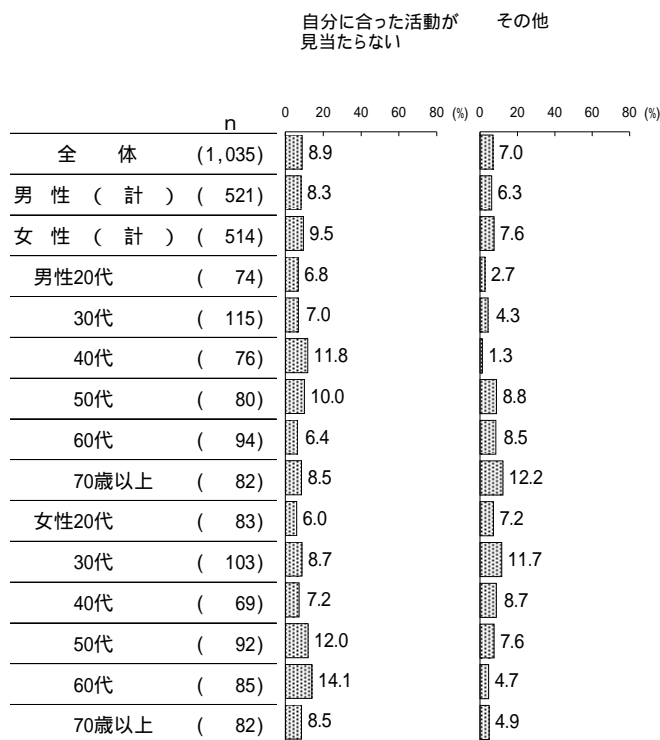
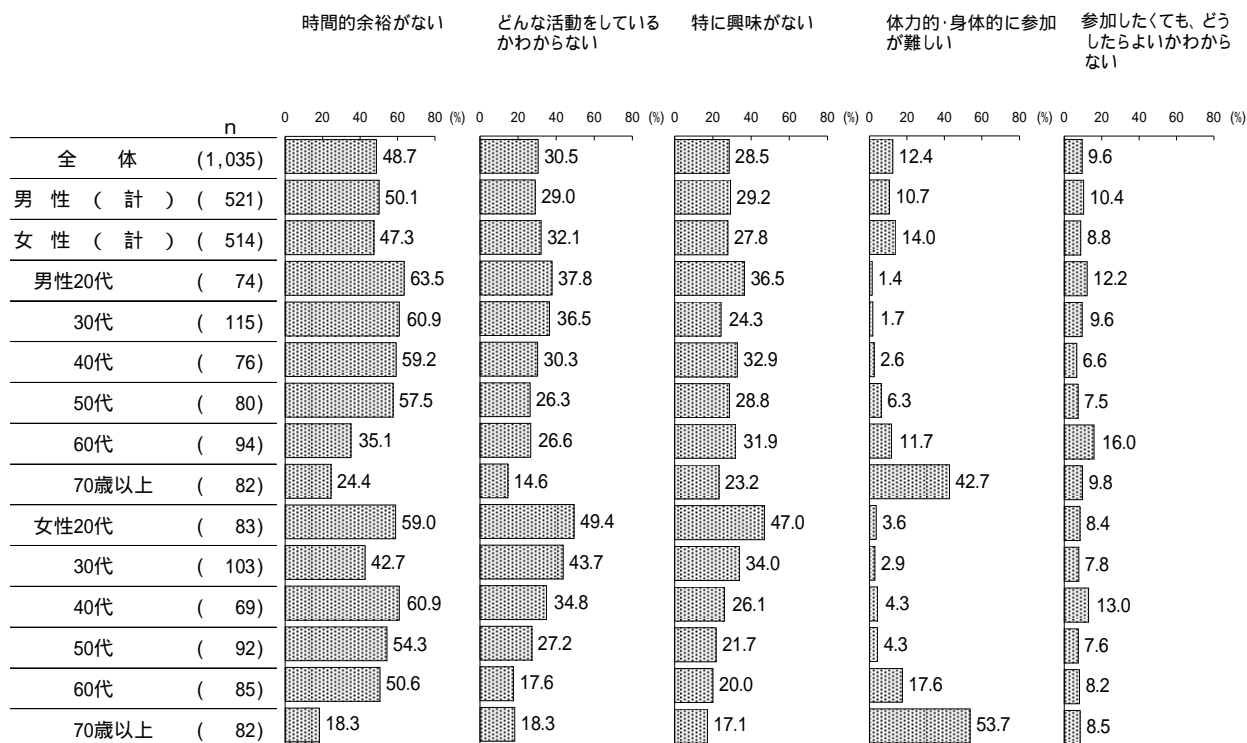
・全体でみると、「時間的余裕がない」(48.7%)が5割近くと最も高く、次いで「どんな活動をしているかわからない」(30.5%)、「特に興味がない」(28.5%)などの順となっている。

[地域活動に参加していない理由 - 地域行政センター管内別]



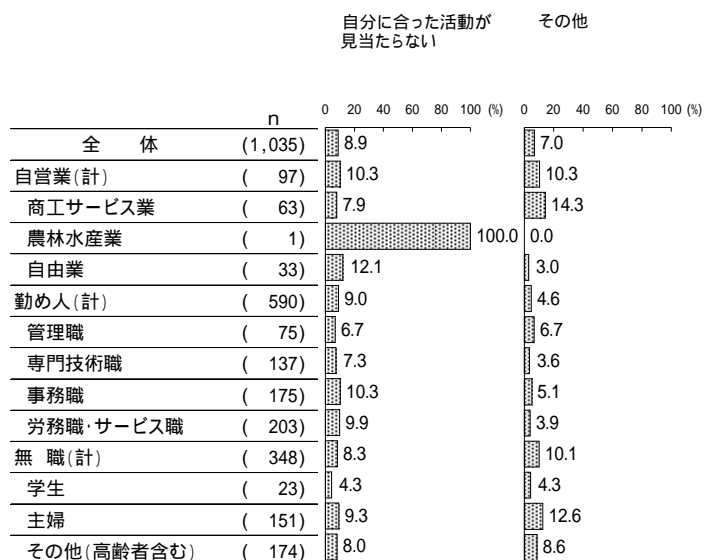
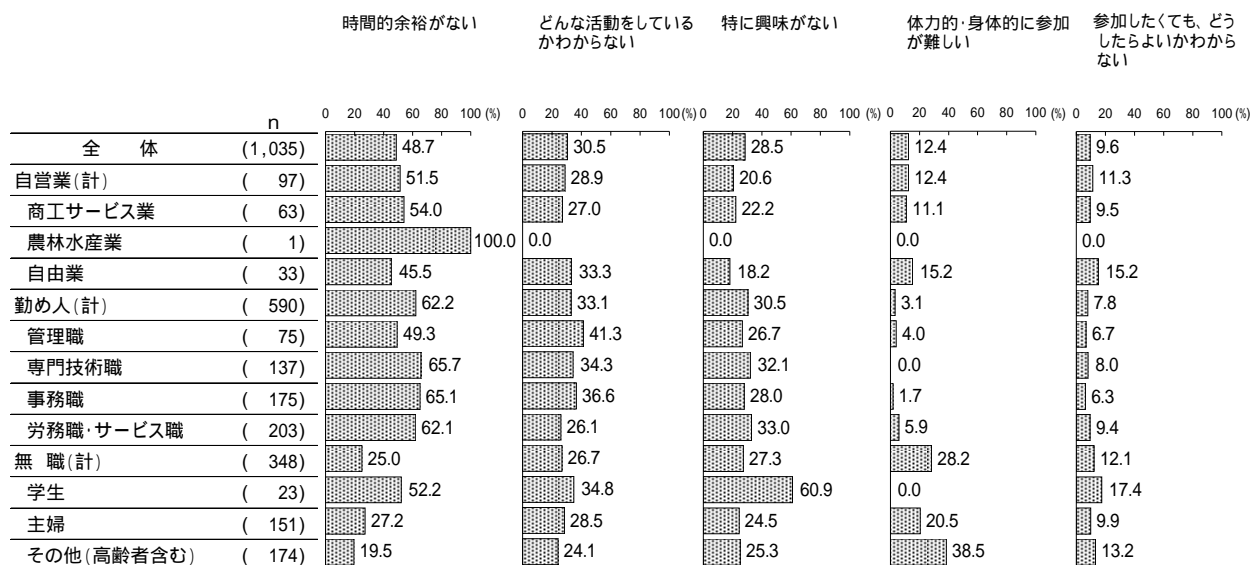
・地域行政センター管内別にみると、「どんな活動をしているかわからない」では大田西地域行政センター管内で3割半ばと他の管内と比べてやや高くなっている。

[地域活動に参加していない理由 - 性 / 年代別]



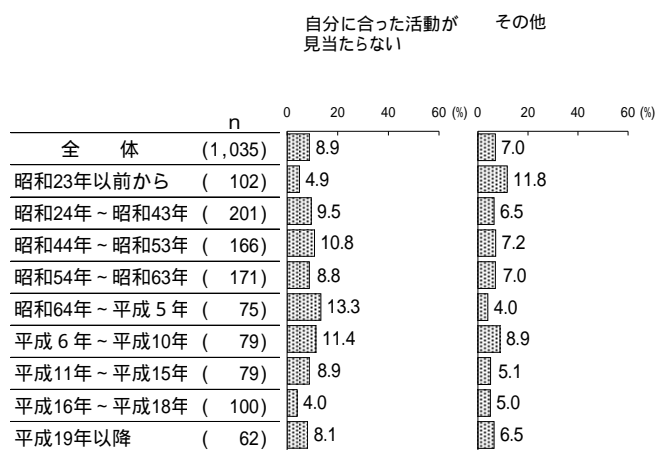
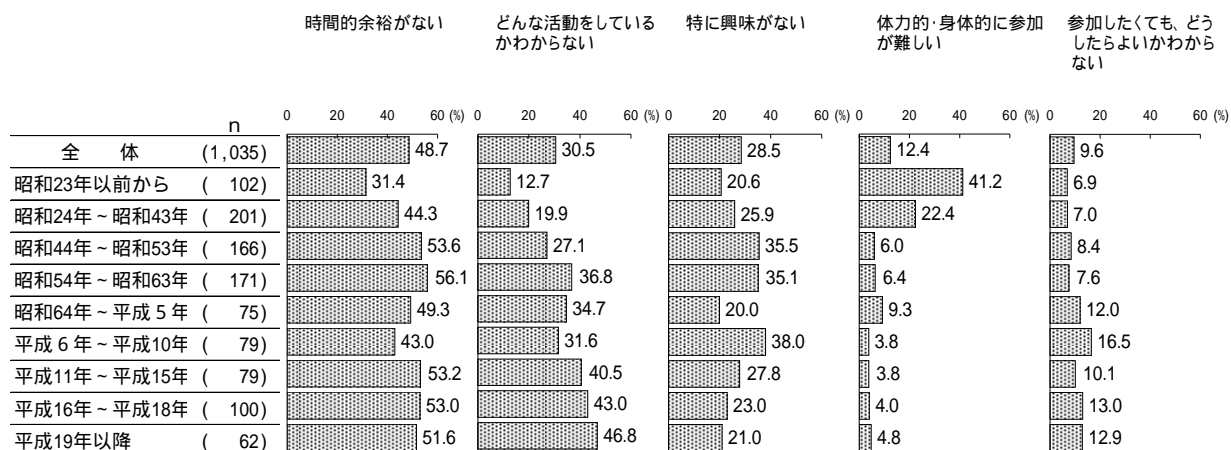
- ・性別にみると、男女間で大きな差はみられない。
- ・性 / 年代別にみると、「時間的余裕がない」では女性 40 代でほぼ 6 割、男性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の 20 代と 30 代で 6 割を超えている。「どんな活動をしているかわからない」では男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性 20 代ではほぼ 5 割となっている。また、「特に興味がない」では女性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性 20 代で 5 割近く、「体力的・身体的に参加が難しい」では男女とも 70 歳以上で高く、男性では 4 割を超え、女性では 5 割を超えている。

[地域活動に参加していない理由 - 職業別]



・職業別にみると、「時間的余裕がない」では『勤め人(計)』で6割を超え高くなっており、そのうち専門技術職、事務職では6割半ばとなっている。「特に興味がない」では学生がほぼ6割、「体力的・身体的に参加が難しい」では『無職(計)』で3割近くとなっている。

[地域活動に参加していない理由 - 居住開始時期別]

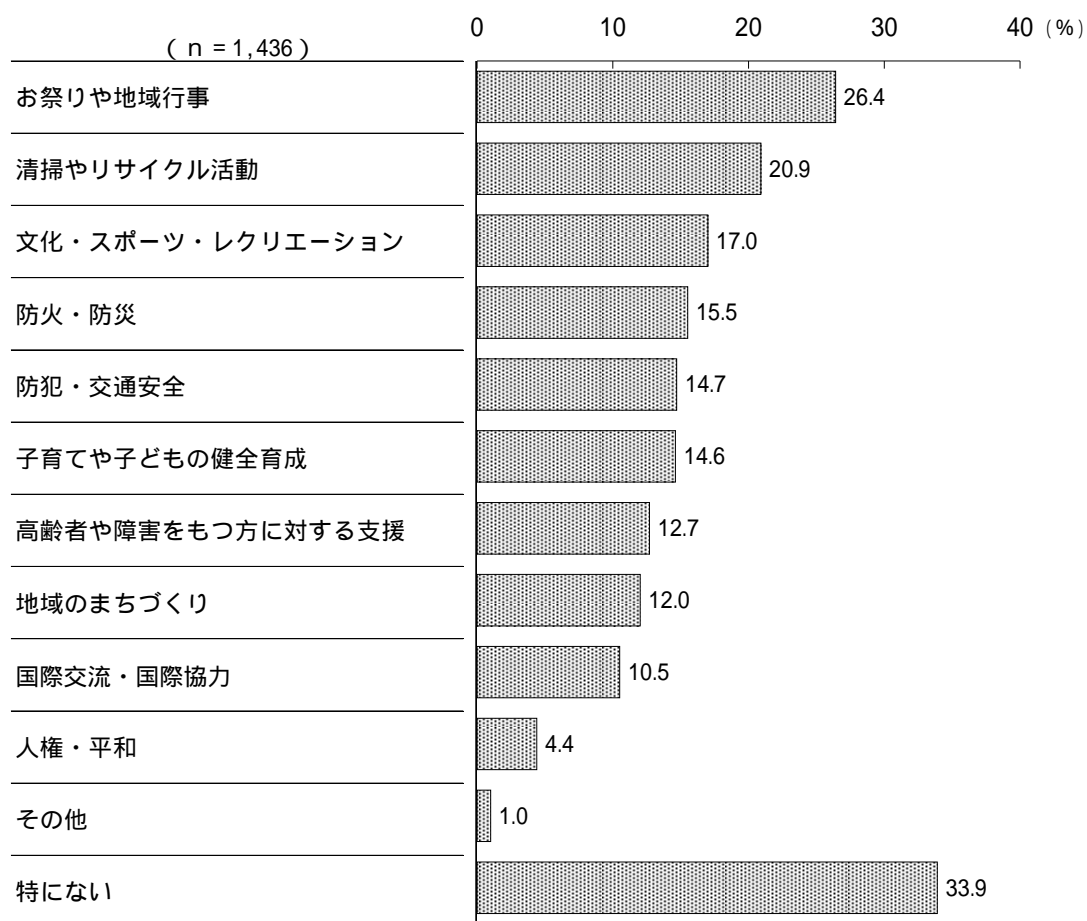


- ・ 居住開始時期別にみると、「どんな活動をしているかわからない」では平成16年以降に居住を開始した居住年数が5年未満の短期居住者で4割を超え高くなっている。

(3) 今後参加したい地域活動

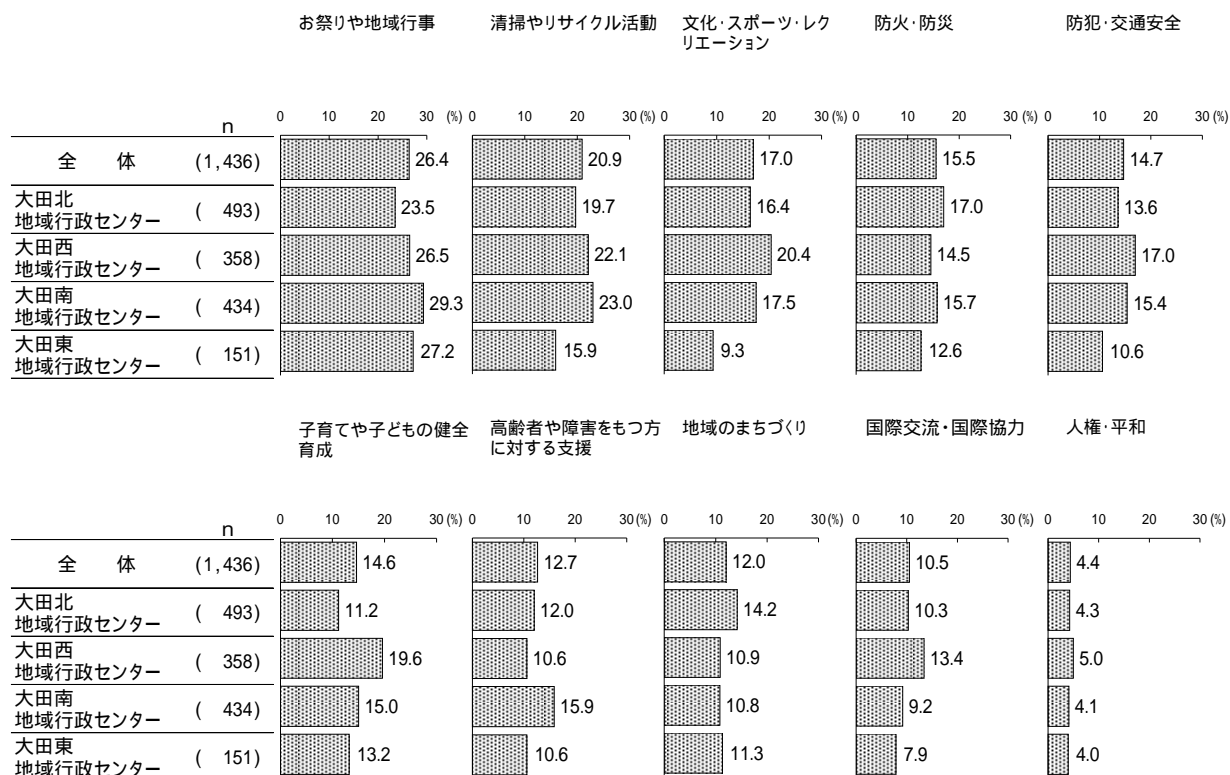
(全員の方に)

問 18. あなたは、今後、どのような分野の地域活動に参加したいと思いますか。(いくつでも)



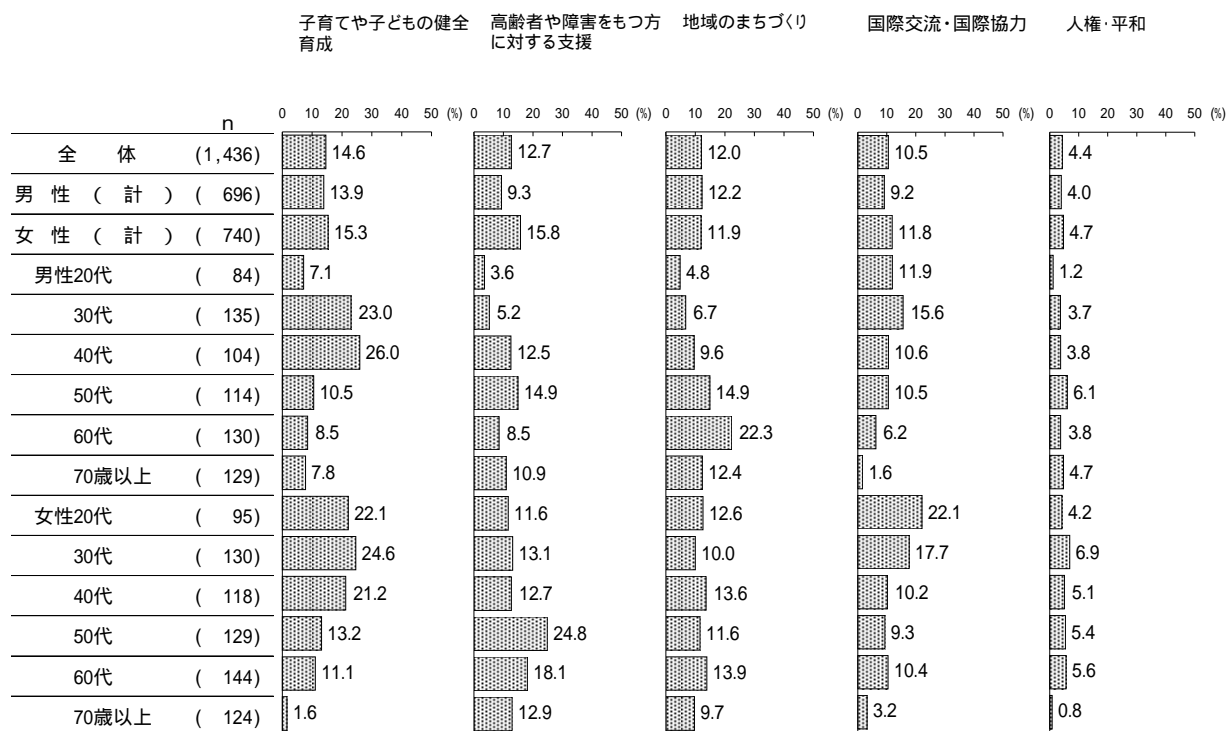
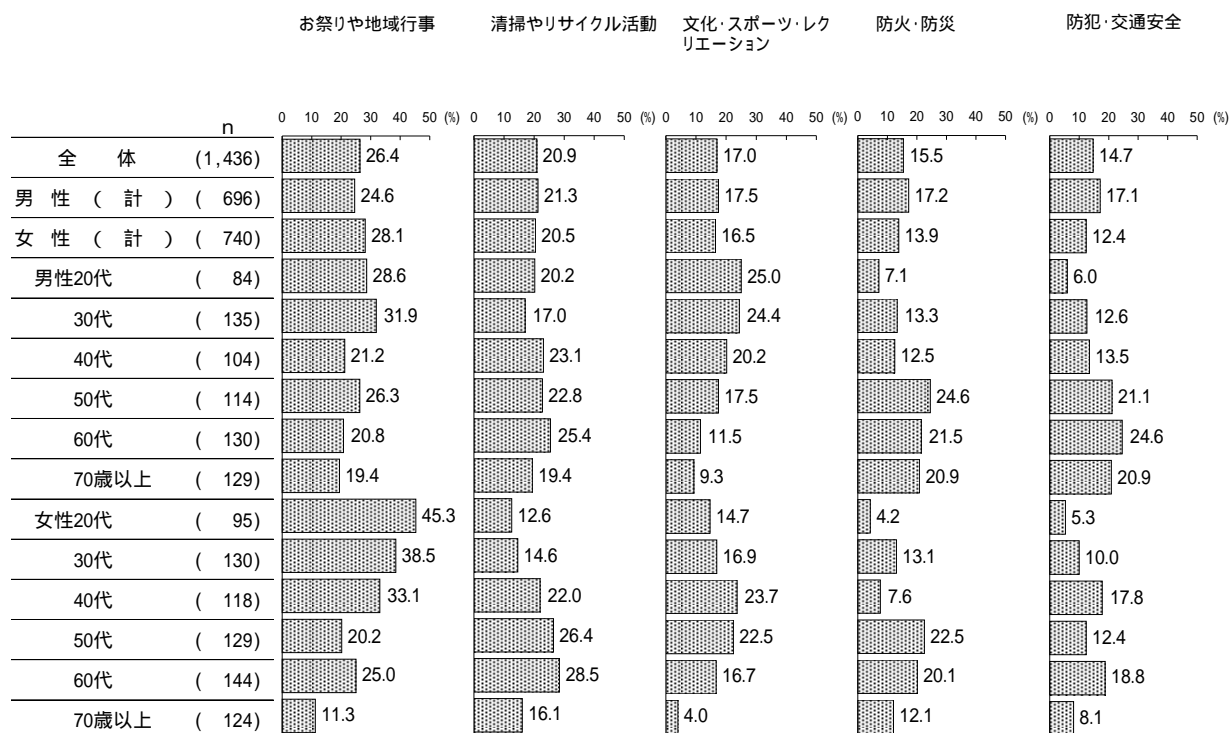
・全体で見ると、「お祭りや地域行事」(26.4%)が2割半ばと最も高く、次いで「清掃やリサイクル活動」(20.9%)、「文化・スポーツ・レクリエーション」(17.0%)、「防火・防災」(15.5%)などの順となっている。

[今後参加したい地域活動 - 地域行政センター管内別 (上位 10 項目)]



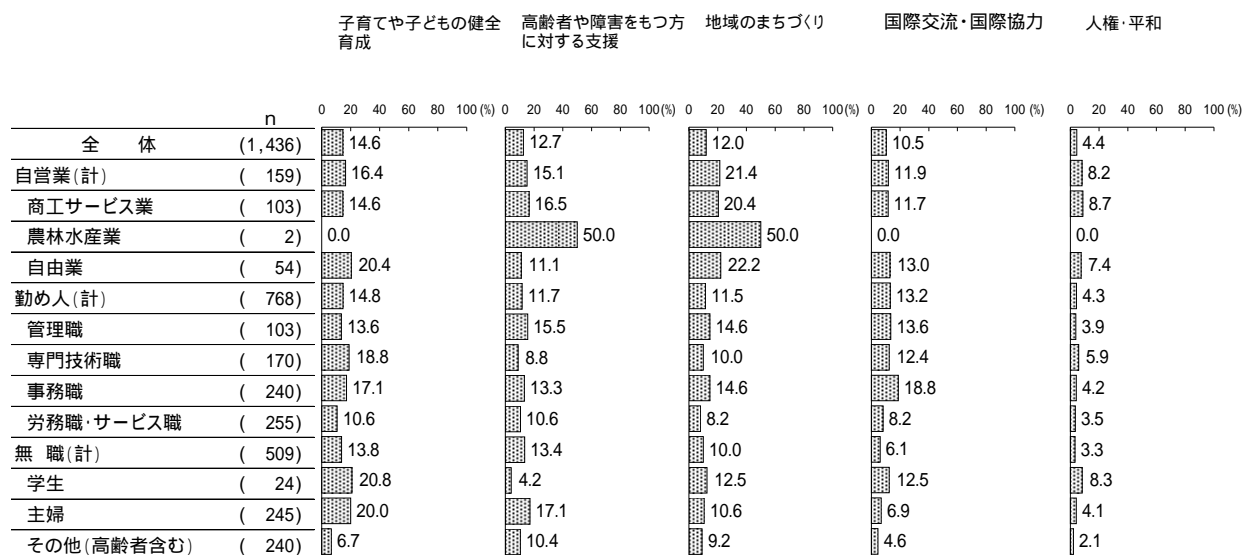
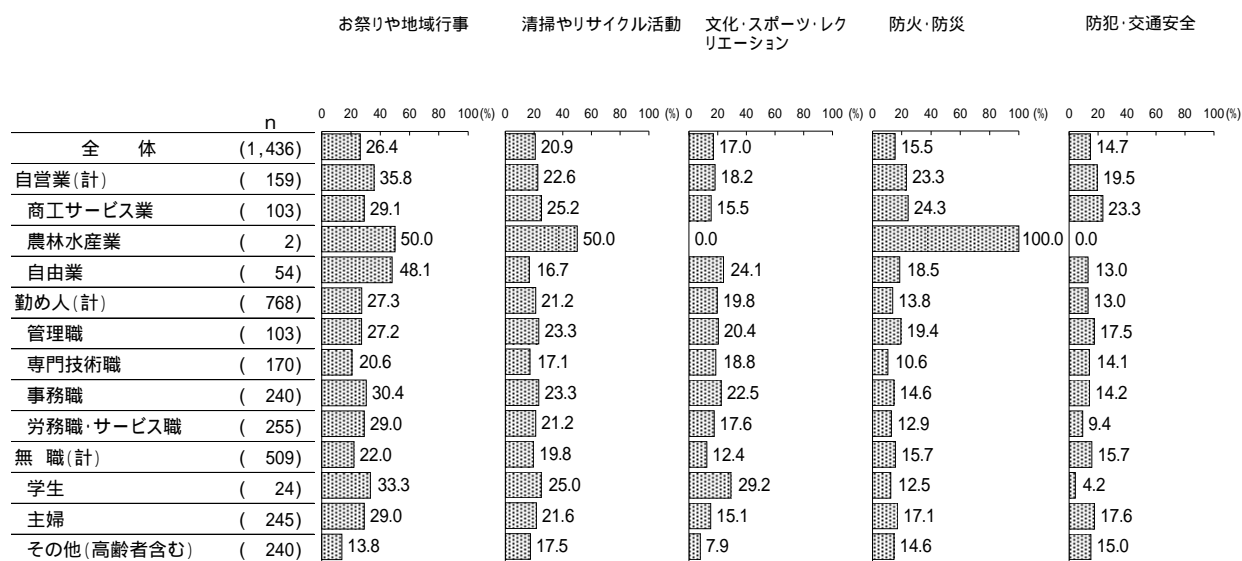
- ・ 地域行政センター管内別にみると、「お祭りや地域行事」では大田南地域行政センター管内でほぼ 3 割、「清掃やリサイクル活動」では大田西地域行政センター管内と大田南地域行政センター管内で 2 割を超え、「文化・スポーツ・レクリエーション」では大田西地域行政センター管内で 2 割となっている。

[今後参加したい地域活動 - 性/年代別 (上位 10 項目)]



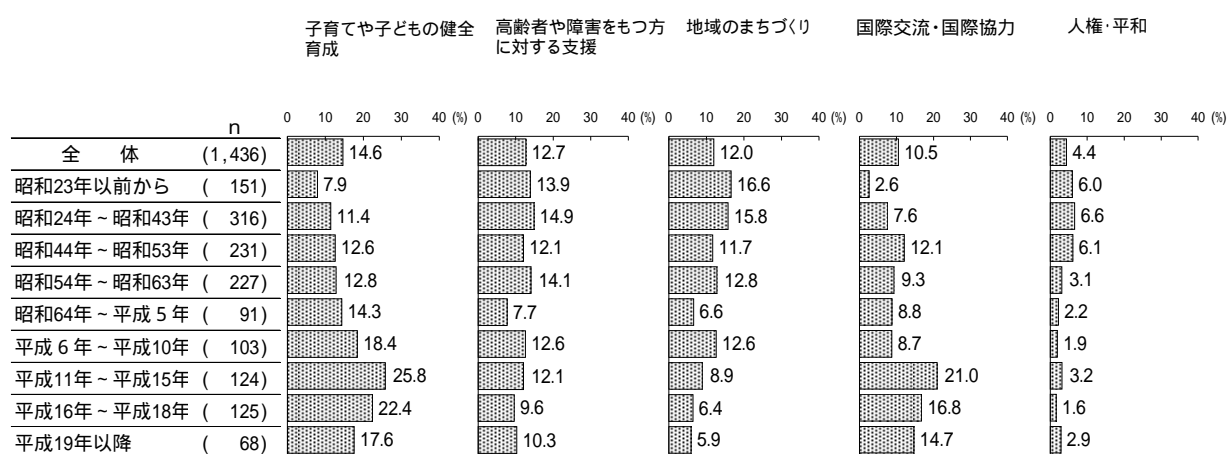
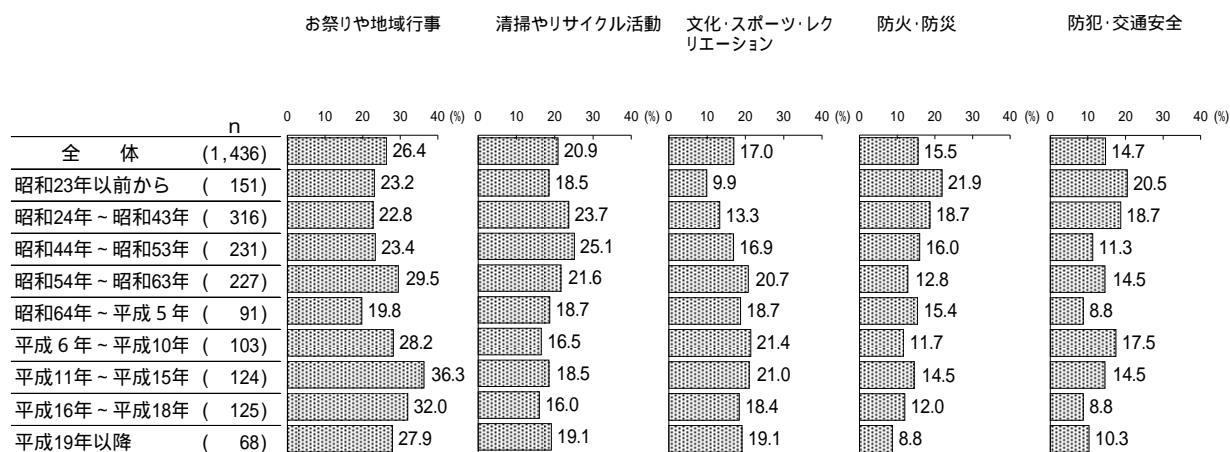
- ・性別にみると、「高齢者や障害をもつ方に対する支援」では女性が男性より 6.5 ポイント高くなっている。
- ・性/年代別にみると、「お祭りや地域行事」では女性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性の 20 代と 30 代で 4 割前後となっている。「清掃やリサイクル活動」では女性の 60 代までで高い年代ほど割合が高い傾向にあり、「文化・スポーツ・レクリエーション」では男性で低い年代ほど割合が高い傾向にある。また、「防火・防災」では男性 50 代で 2 割半ば、「子育てや子どもの健全育成」では男性の 30 代と 40 代で 2 割を超え、女性では低い年代ほど割合が高い傾向にある。

[今後参加したい地域活動 - 職業別 (上位 10 項目)]



・職業別にみると、「お祭りや地域行事」では『自営業 (計)』で3割半ばと高くなっている。また、「防火・防災」と「地域のまちづくり」でも『自営業 (計)』が全体と比べて高くなっている。

[今後参加したい地域活動 - 居住開始時期別 (上位 10 項目)]

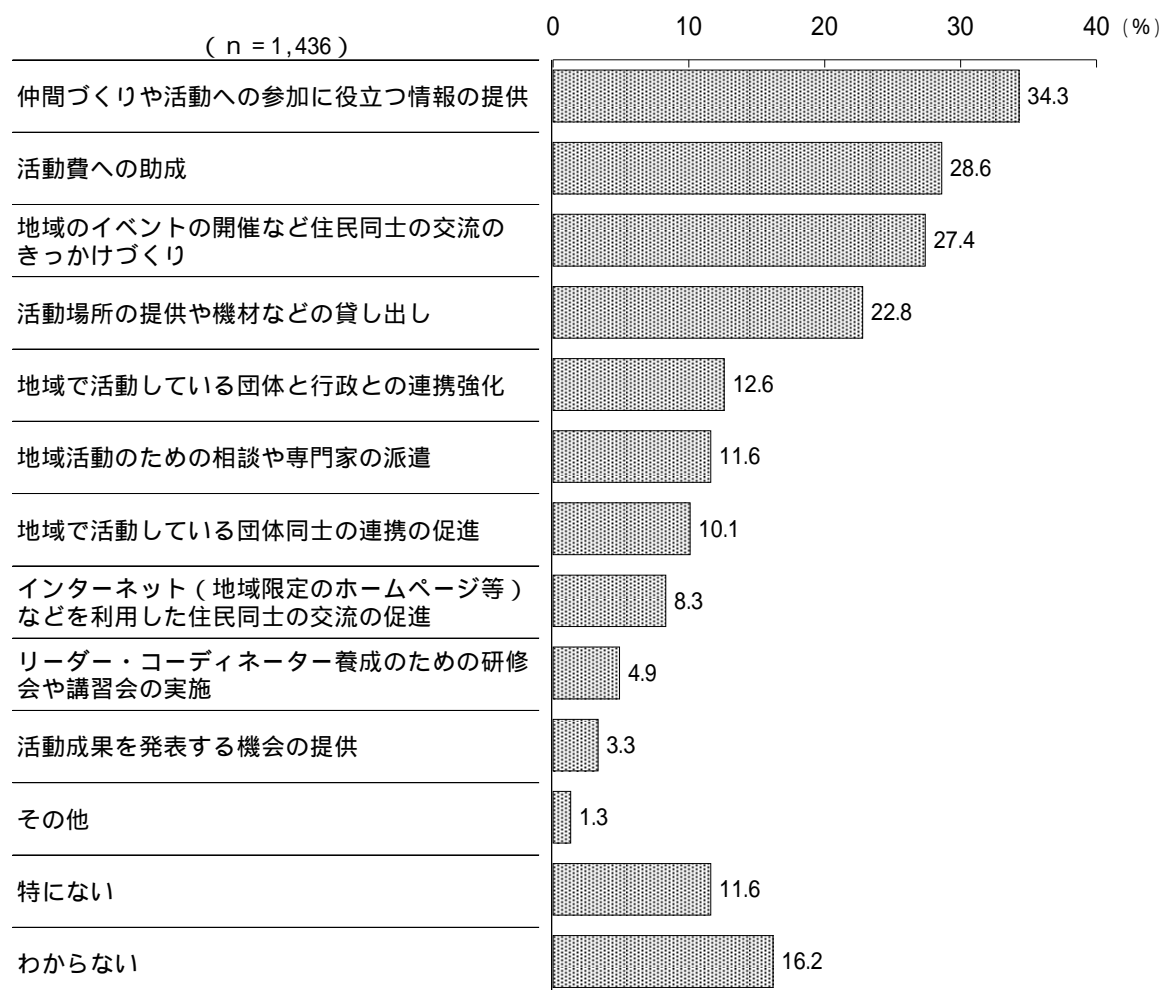


- ・ 居住開始時期別にみると、「お祭りや地域行事」では平成 11 年～平成 15 年に居住を開始した居住年数が 5 年以上 10 年未満の人で 3 割半ば、平成 16 年～平成 18 年に居住を開始した居住年数が 2 年以上 5 年未満の人で 3 割を超えている。「防火・防災」では居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、「子育てや子どもの健全育成」では平成 11 年以降に居住を開始した居住年数が 10 年未満の人では居住年数が長いほど割合が高い傾向にあるが、平成 10 年以前に居住を開始した居住年数が 10 年以上の人では居住年数が短いほど割合が高い傾向にある。

(4) 地域活動を活発にするために必要な支援

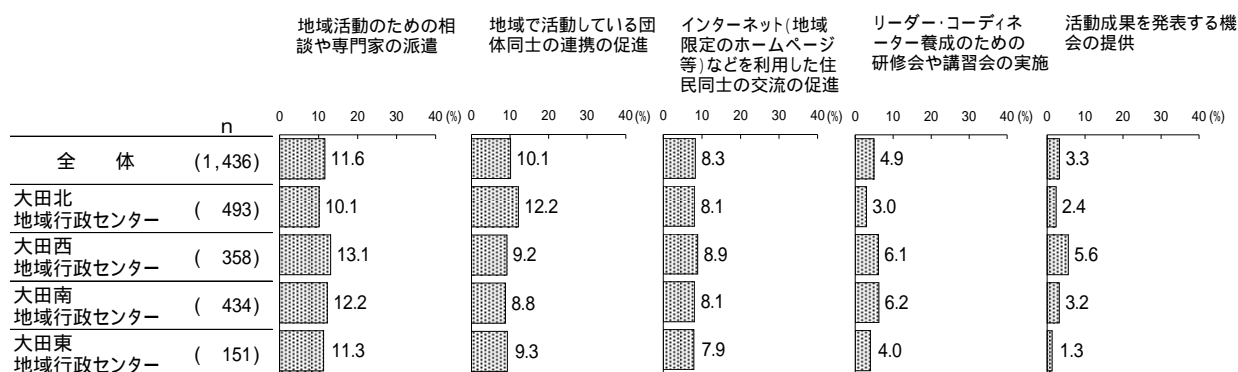
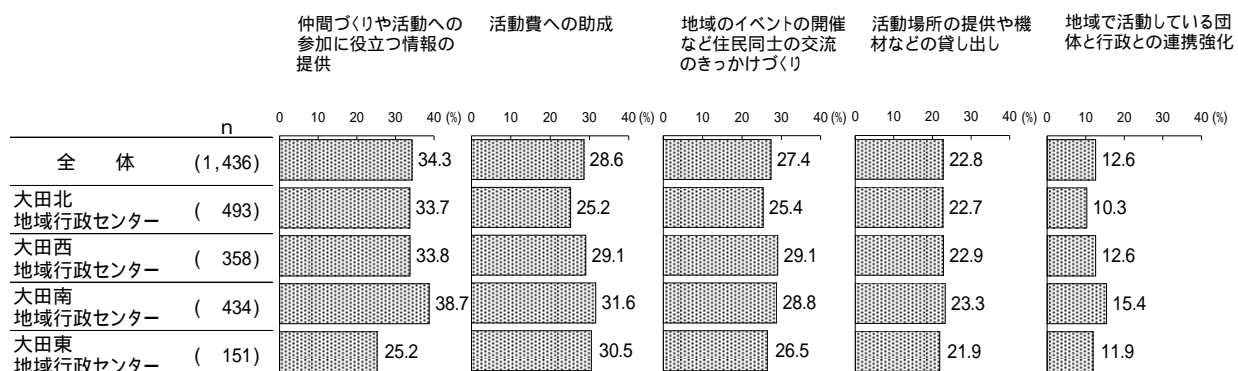
(全員の方向に)

問 19. あなたは、地域活動を活発にするために、行政がどのような支援をしたらよいと思いますか。(3つまで)



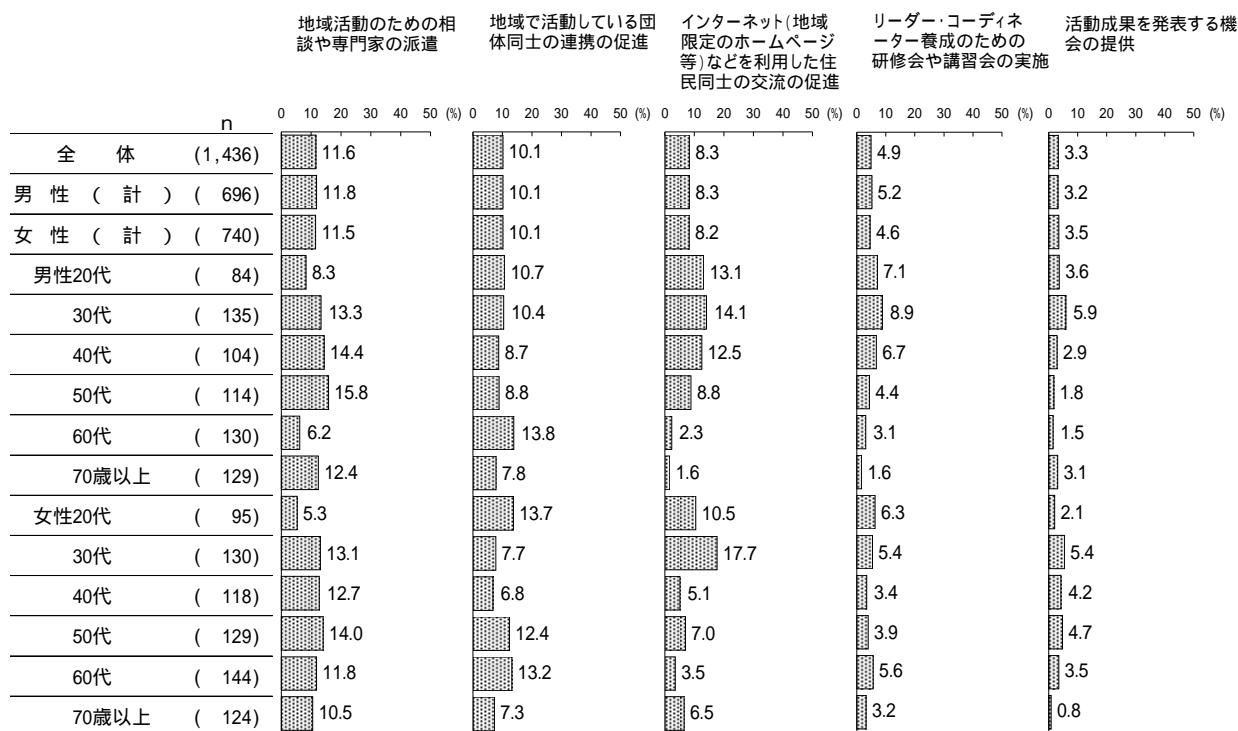
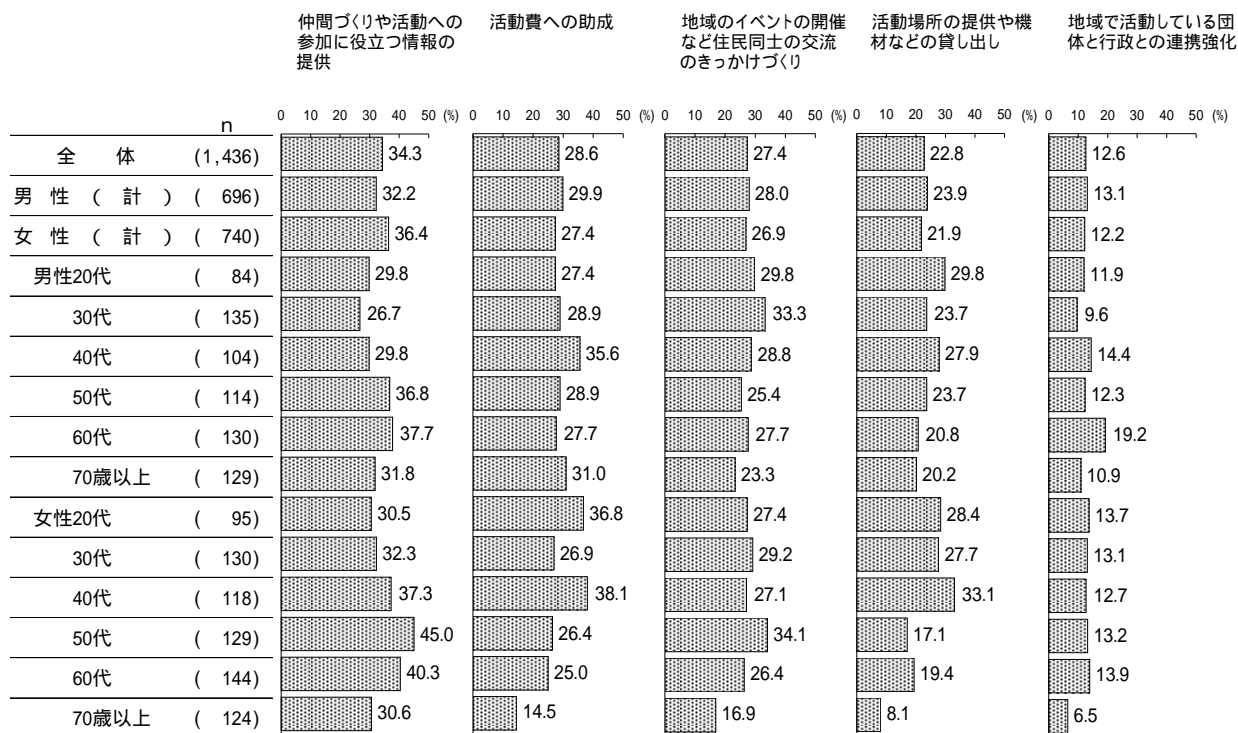
- ・全体で見ると、「仲間づくりや活動への参加に役立つ情報の提供」(34.3%)が3割半ばと最も高く、次いで「活動費への助成」(28.6%)、「地域のイベントの開催など住民同士の交流のきっかけづくり」(27.4%)、「活動場所の提供や機材などの貸し出し」(22.8%)などの順となっている。

[地域活動を活発にするために必要な支援 - 地域行政センター管内別 (上位 10 項目)]



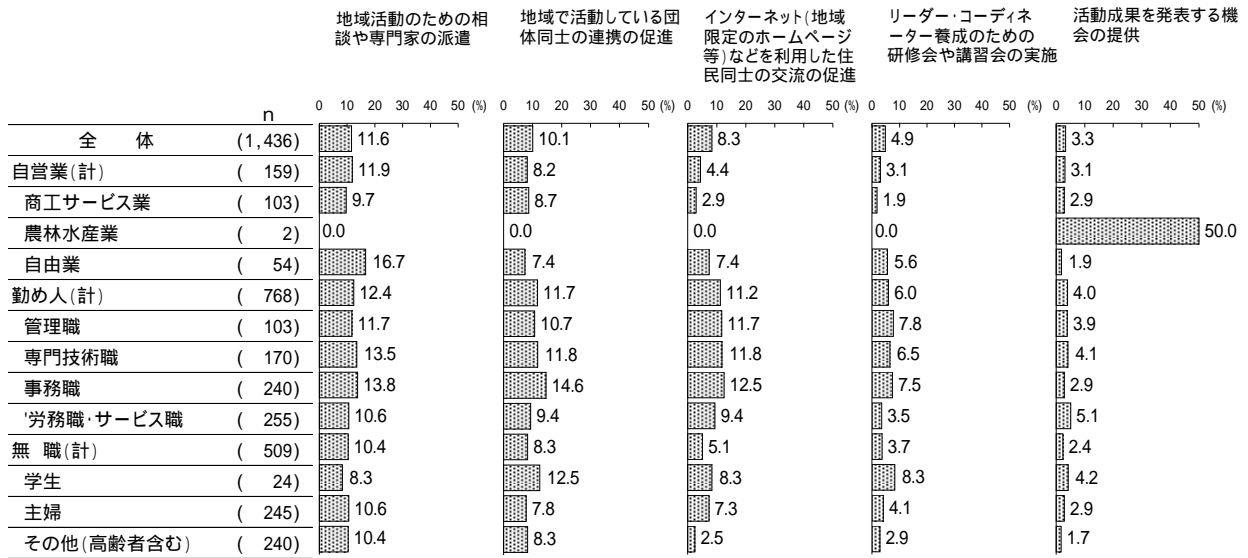
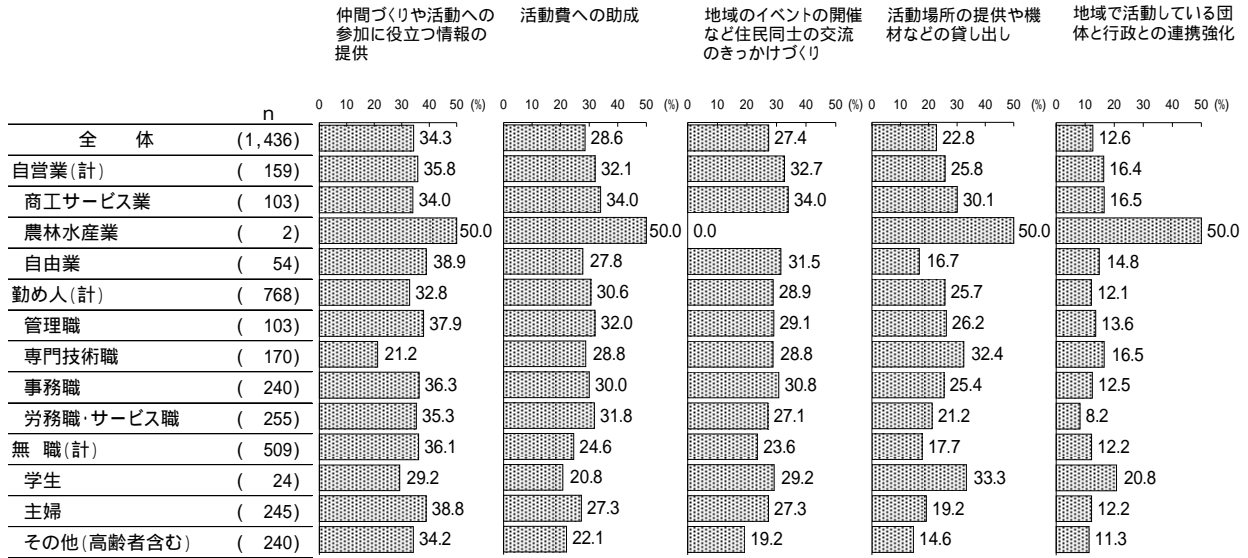
- ・ 地域行政センター管内別にみると、「仲間づくりや活動への参加に役立つ情報の提供」では大田南地域行政センター管内で4割近くと他の管内と比べてやや高くなっている。

[地域活動を活発にするために必要な支援 - 性 / 年代別 (上位 10 項目)]



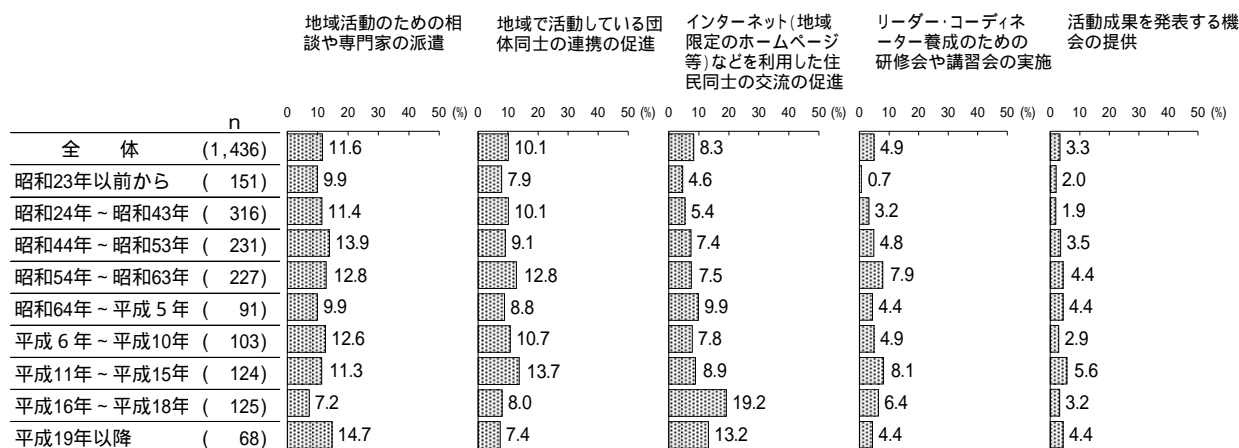
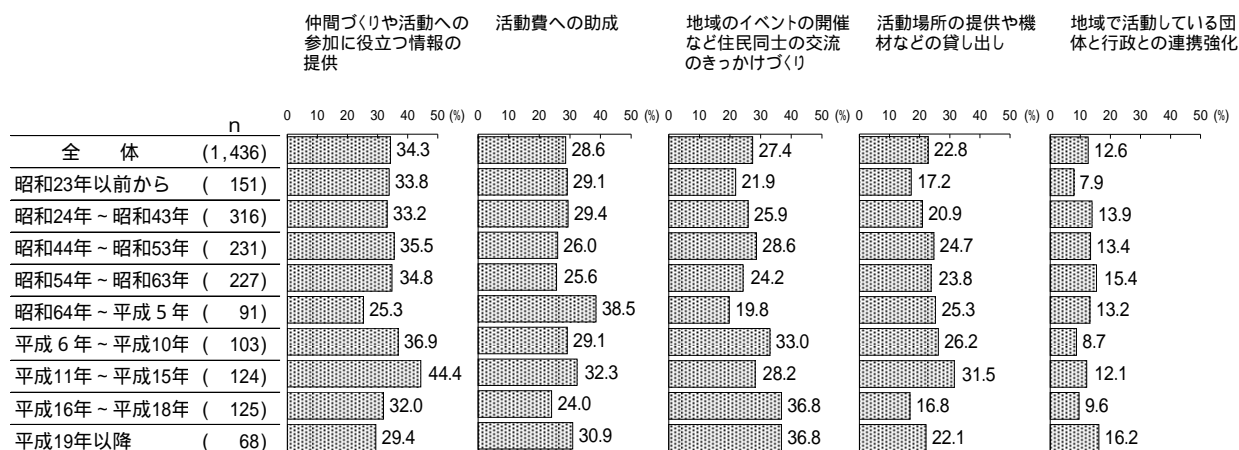
- ・性別にみると、男女間で大きな差はみられない。
- ・性 / 年代別にみると、「仲間づくりや活動への参加に役立つ情報の提供」では女性の 50 代と 60 代で 4 割を超え、「活動費への助成」では男女のそれぞれ 40 代と女性 20 代で 3 割半ばから 4 割近くとなっている。

[地域活動を活発にするために必要な支援 - 職業別 (上位 10 項目)]



・職業別にみると、「活動場所の提供や機材などの貸し出し」では専門技術職、学生、商工サービス業で3割以上と全体と比べてやや高くなっている。

[地域活動を活発にするために必要な支援 - 居住開始時期別]

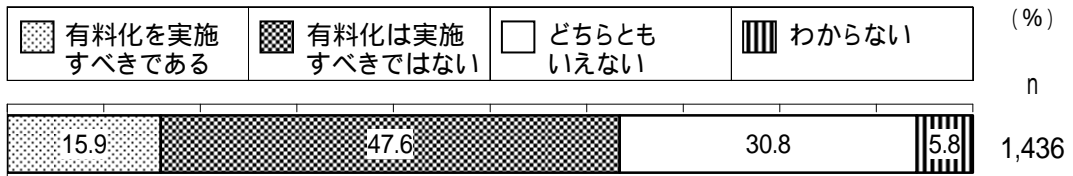


・居住開始時期別にみると、「地域のイベントの開催など住民同士の交流のきっかけづくり」では平成16年以降に居住を開始した居住年数が5年未満の短期居住者で4割近くとやや高くなっている。

(5) 家庭ごみの有料化

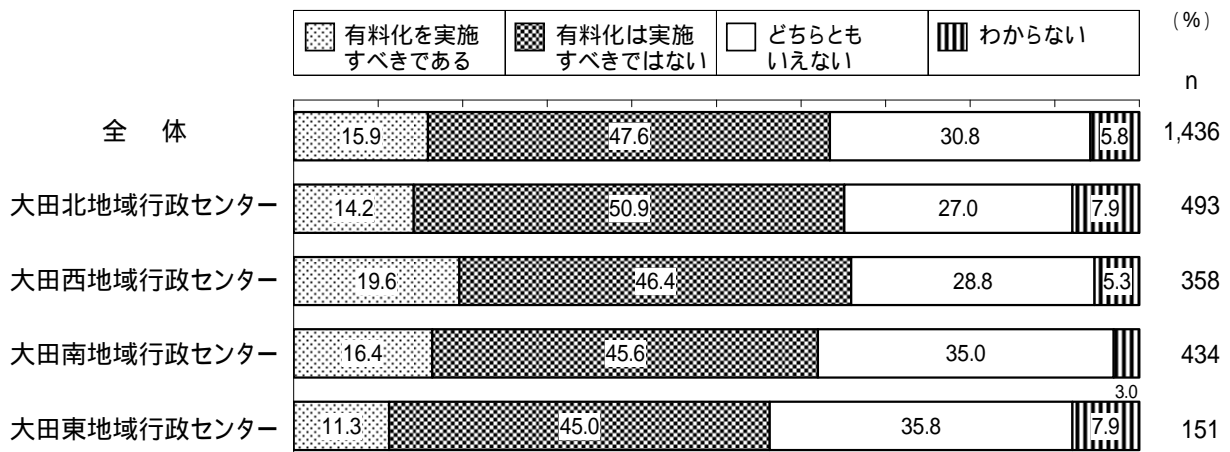
(全員の方向に)

問 20. ごみの減量等のため、一般家庭から出すごみの量に応じて、皆さんに費用の一部を負担していただく「家庭ごみの有料化」を導入する市町村が増えています。「家庭ごみの有料化」についてあなたはどのようにお考えですか。(1つだけ)



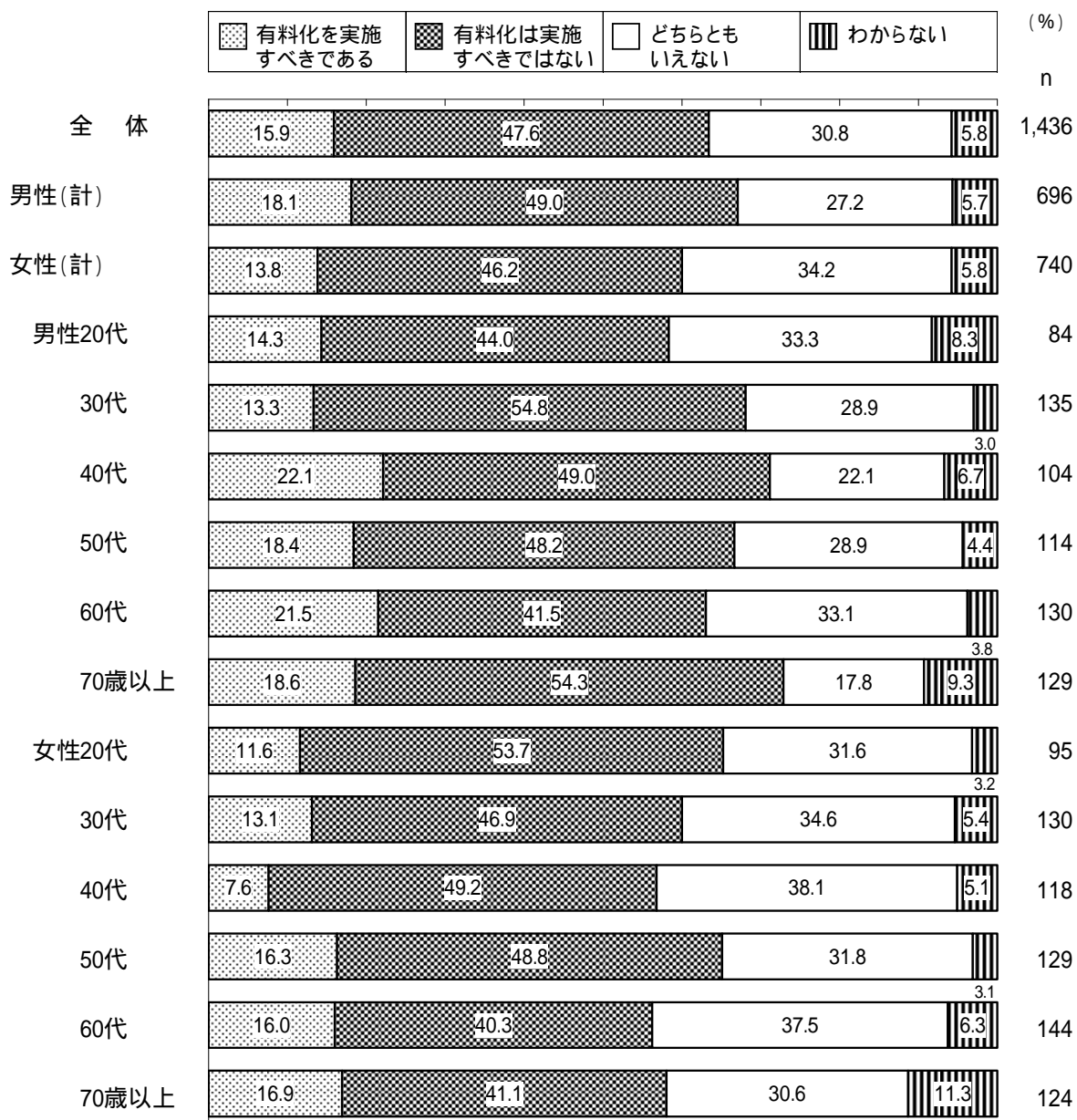
・全体で見ると、「有料化は実施すべきではない」(47.6%)が5割近くで、「有料化を実施すべきである」(15.9%)を上回っている。「どちらともいえない」(30.8%)はほぼ3割となっている。

[家庭ごみの有料化 - 地域行政センター管内別]



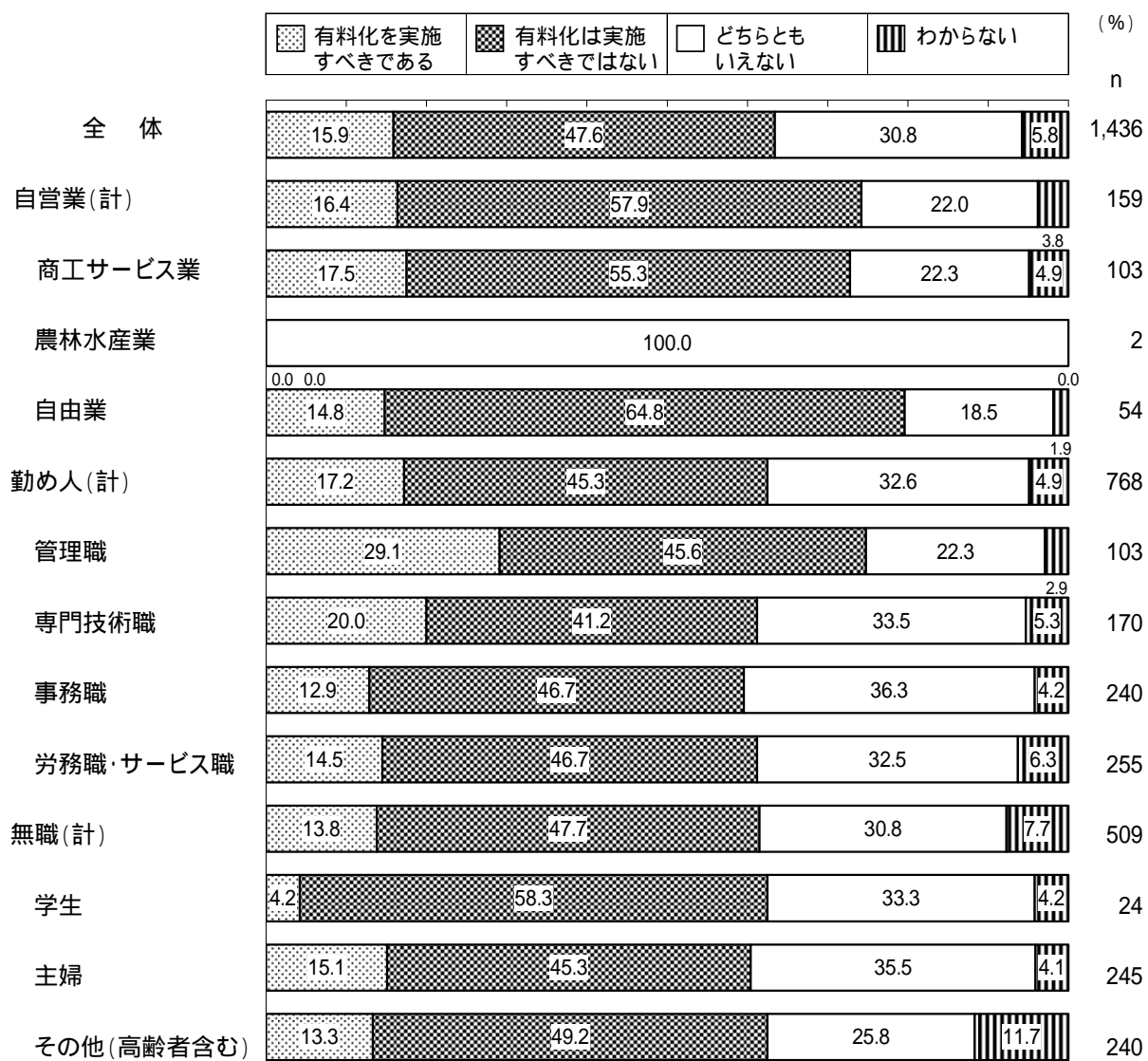
・地域行政センター管内別にみると、「有料化を実施すべきである」では大田西地域行政センター管内で2割、「有料化は実施すべきではない」では大田北地域行政センター管内でほぼ5割と他の管内と比べてやや高くなっている。

[家庭ごみの有料化 - 性 / 年代別]



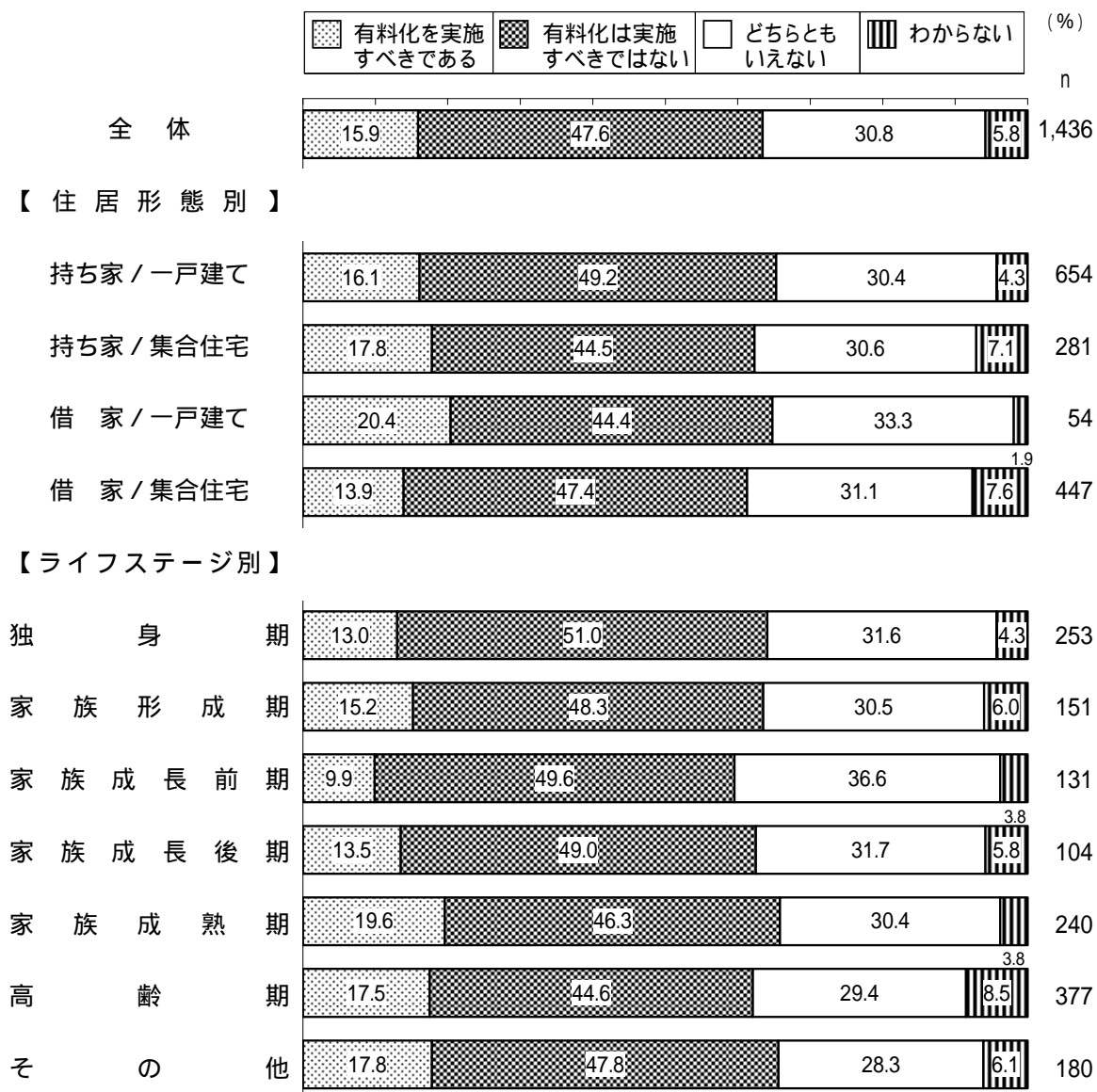
- ・性別にみると、「どちらともいえない」では女性が男性より7.0ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「有料化を実施すべきである」では男性の40代と60代で2割を超え、「有料化は実施すべきではない」では男性30代、男性70歳以上、女性20代で5割を超えている。

[家庭ごみの有料化 - 職業別]



- ・職業別にみると、「有料化を実施すべきである」では管理職でほぼ3割と高くなっている。「有料化は実施すべきではない」では『自営業(計)』で6割近くと高く、そのうち自由業では6割半ばとなっている。

[家庭ごみの有料化 - 住居形態別、ライフステージ別]

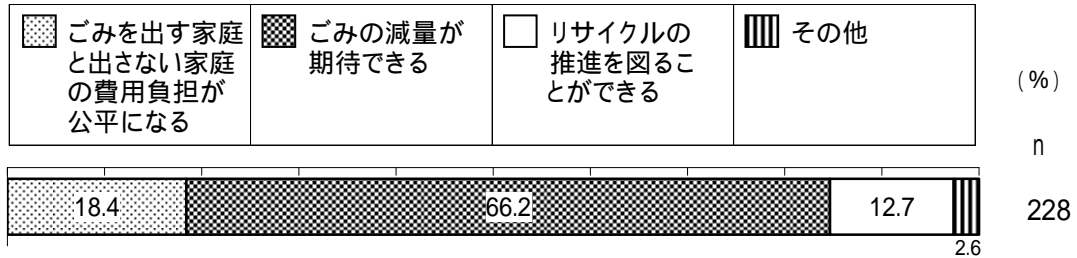


- ・住居形態別にみると、「有料化を実施すべきである」では借家の一戸建てで2割となっている。
- ・ライフステージ別にみると、「有料化を実施すべきである」では家族成熟期で2割となっている。

(6) 有料化を実施すべきだと思ふ理由

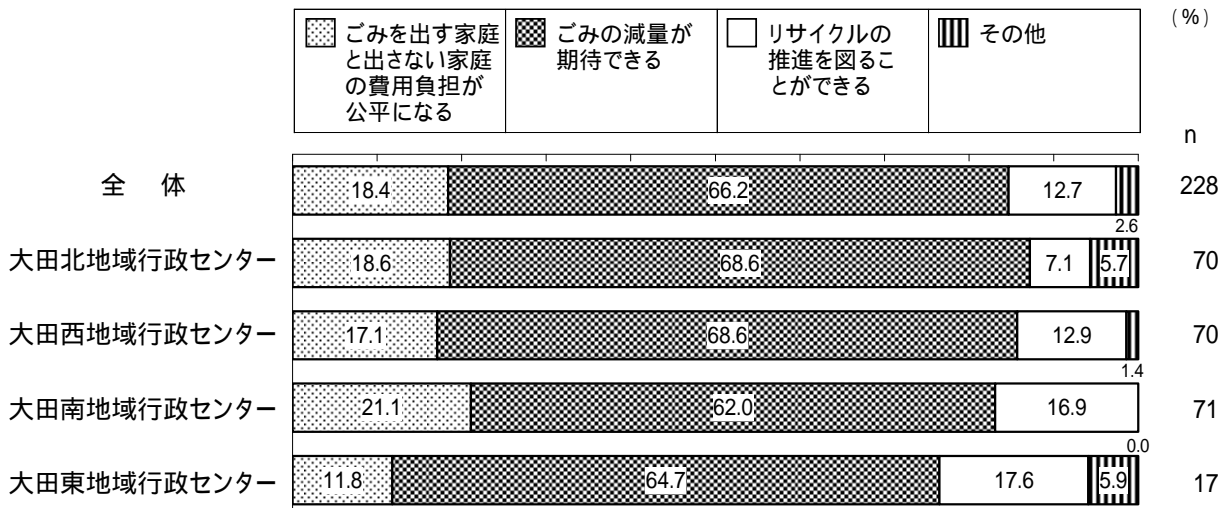
(問20で「1 有料化を実施すべきである」と回答した方に)

問20-1. その理由は何ですか。(主なものを1つだけ)



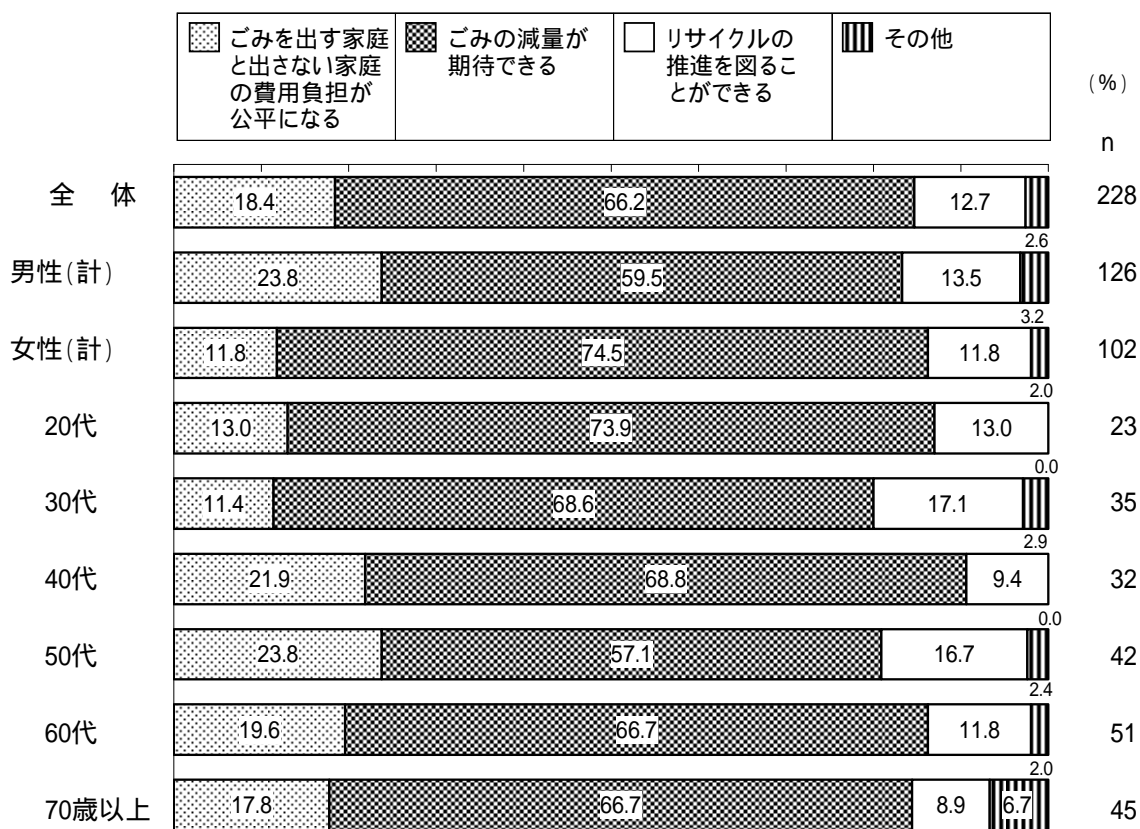
- ・全体で見ると、「ごみの減量が期待できる」(66.2%)が6割半ばと最も高く、次いで「ごみを出す家庭と出さない家庭の費用負担が公平になる」(18.4%)、「リサイクルの推進を図ることができる」(12.7%)の順となっている。

[有料化を実施すべきだと思ふ理由 - 地域行政センター管内別]



- ・地域行政センター管内別にみると、「ごみを出す家庭と出さない家庭の費用負担が公平になる」では大田南地域行政センター管内で2割を超え、「リサイクルの推進を図ることができる」では大田南地域行政センター管内と大田東地域行政センター管内で2割近くとなっている。

[有料化を実施すべきだと思う理由 - 性別 / 年代別]

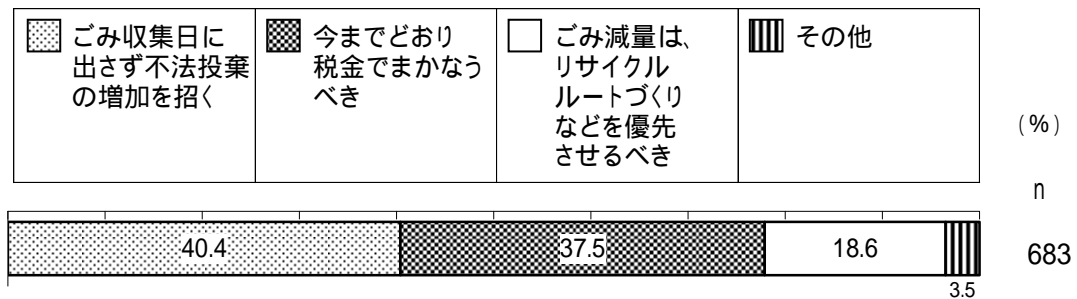


- ・性別にみると、「ごみの減量が期待できる」では女性が男性より 15.0 ポイント高く、「ごみを出す家庭と出さない家庭の費用負担が公平になる」では男性が女性より 12.0 ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると、「ごみの減量が期待できる」では女性 20代で 7 割を超えている。「ごみを出す家庭と出さない家庭の費用負担が公平になる」では 40代と 50代で 2 割を超えている。

(7) 有料化は実施すべきではないと思う理由

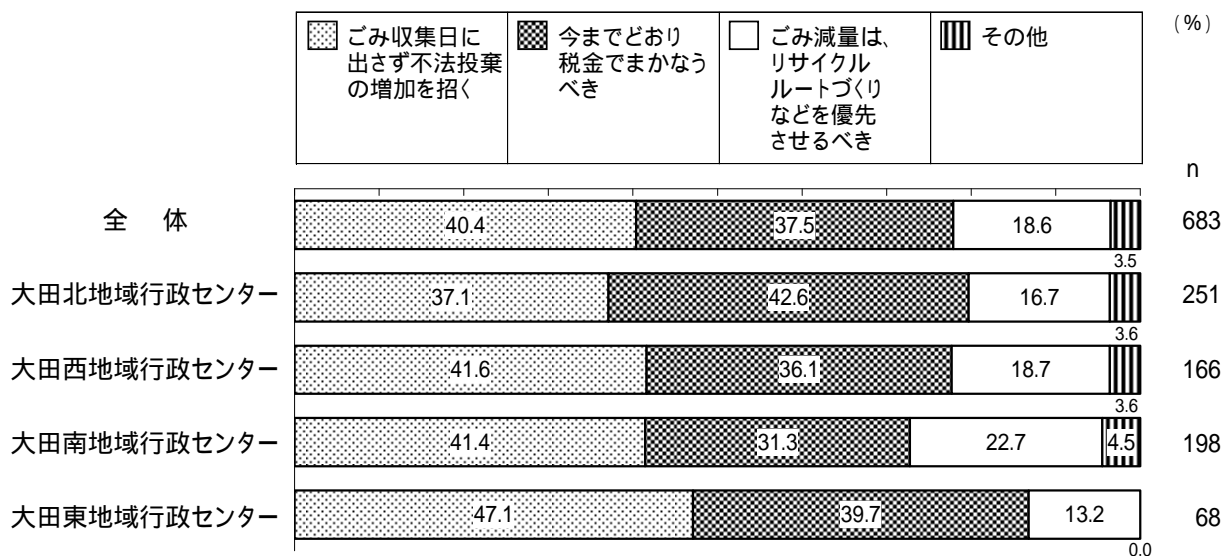
(問20で「2 有料化は実施すべきではない」と回答した方に)

問20-2. その理由は何ですか。(主なものを1つだけ)



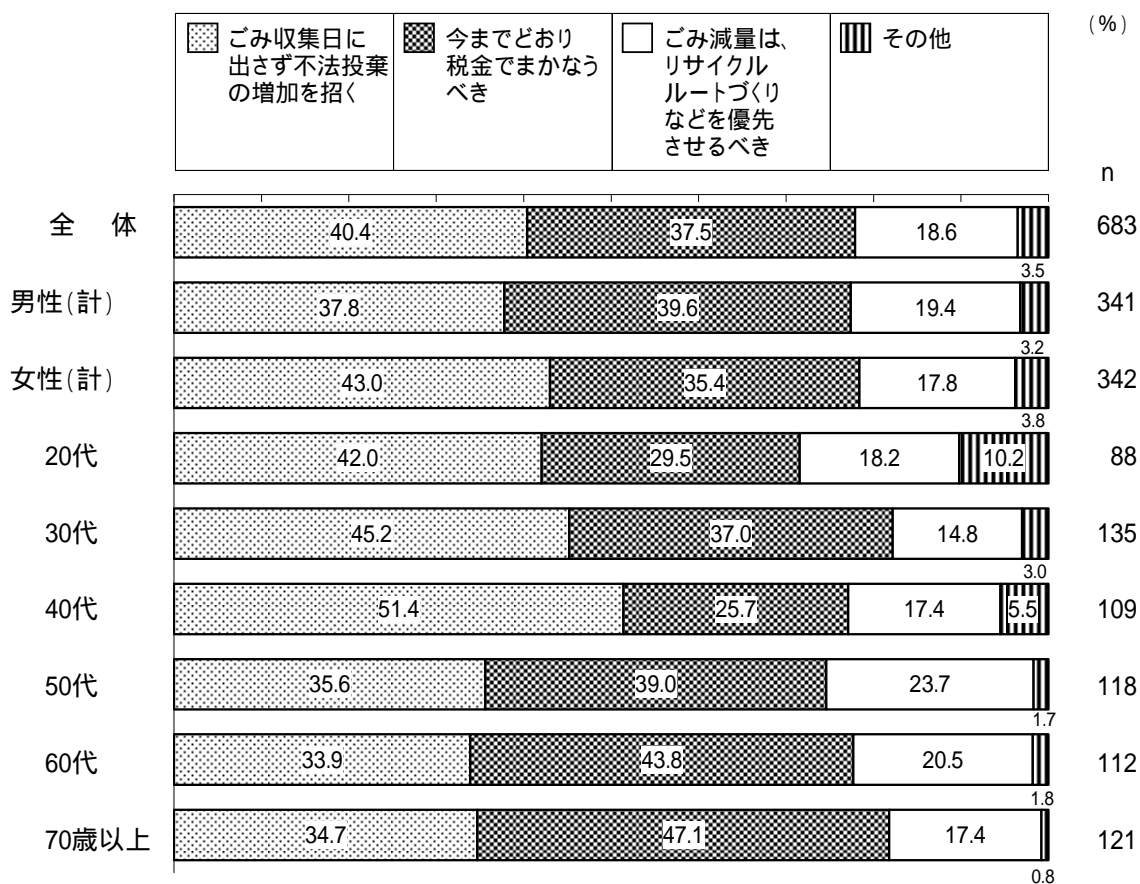
・全体でみると、「ごみ収集日に出さず不法投棄の増加を招く」(40.4%)が4割と最も高く、次いで、「今までどおり税金でまかなうべき」(37.5%)、「ごみ減量は、リサイクルルートづくりなどを優先させるべき」(18.6%)の順となっている。

[有料化は実施すべきではないと思う理由 - 地域行政センター管内別]



・地域行政センター管内別にみると、「ごみ収集日に出さず不法投棄の増加を招く」では大田東地域行政センター管内で5割近く、「今までどおり税金でまかなうべき」では大田北地域行政センター管内と大田東地域行政センター管内で4割前後、「ごみ減量は、リサイクルルートづくりなどを優先させるべき」では大田南地域行政センター管内で2割を超えている。

[有料化は実施すべきではないと思う理由 - 性別 / 年代別]



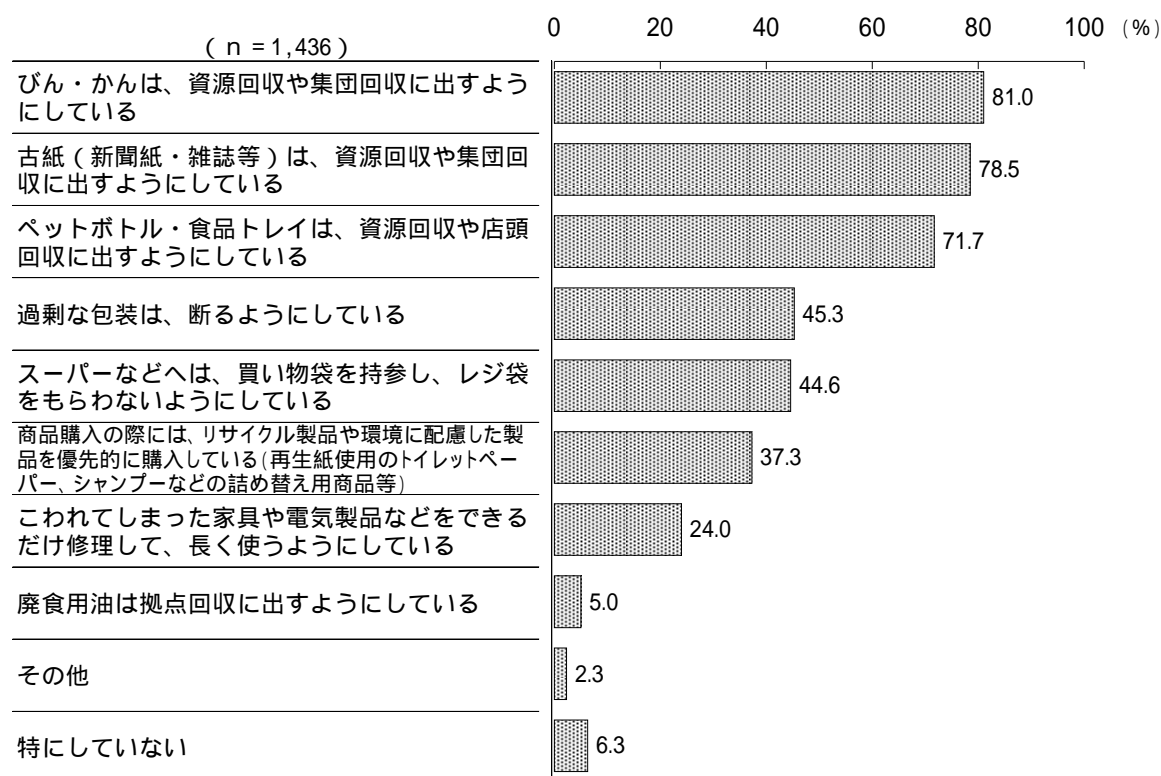
- ・性別にみると、「ごみ収集日に出さず不法投棄の増加を招く」では女性が男性より 5.2 ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると、「ごみ収集日に出さず不法投棄の増加を招く」では 40 代で 5 割を超え、「今までどおり税金でまかなうべき」では 60 代以上で 4 割を超えている。

(8) ごみ減量のため工夫していること

(全員の方に)

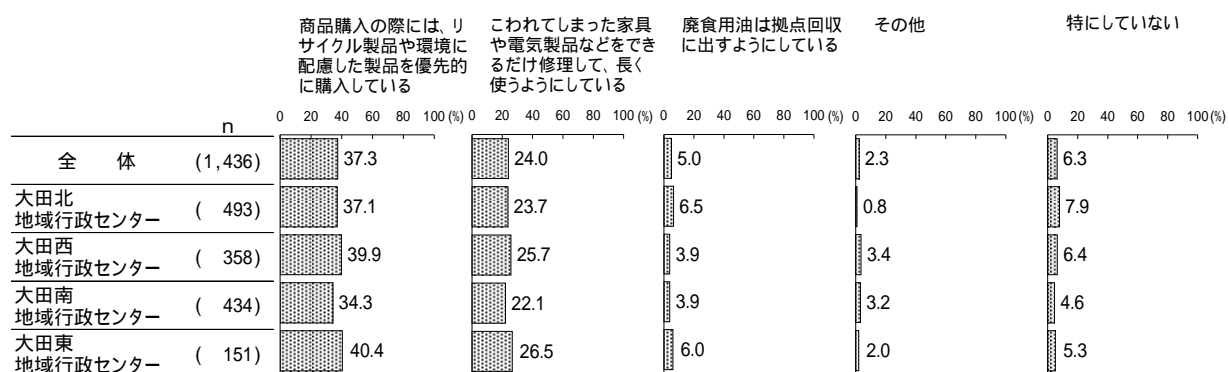
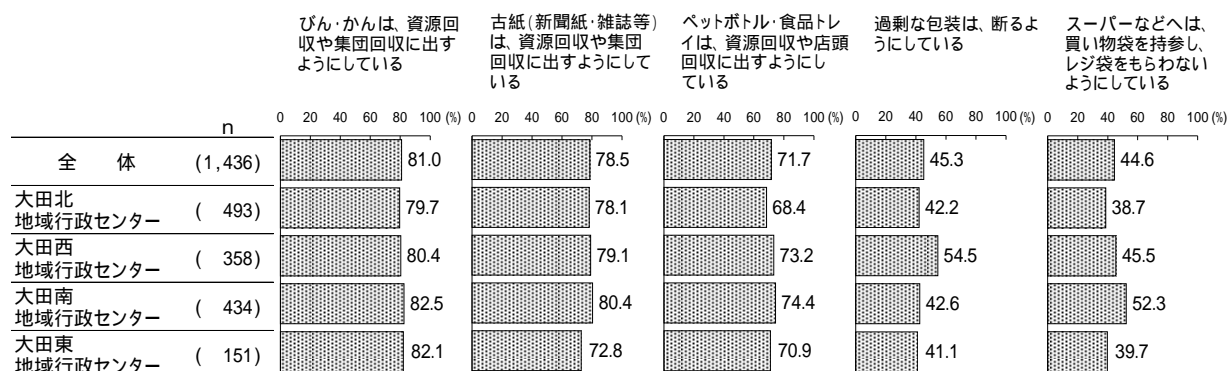
問 21 . あなたは、ごみ減量のために、普段の生活の中で、どのような工夫をしていますか。

(いくつでも)



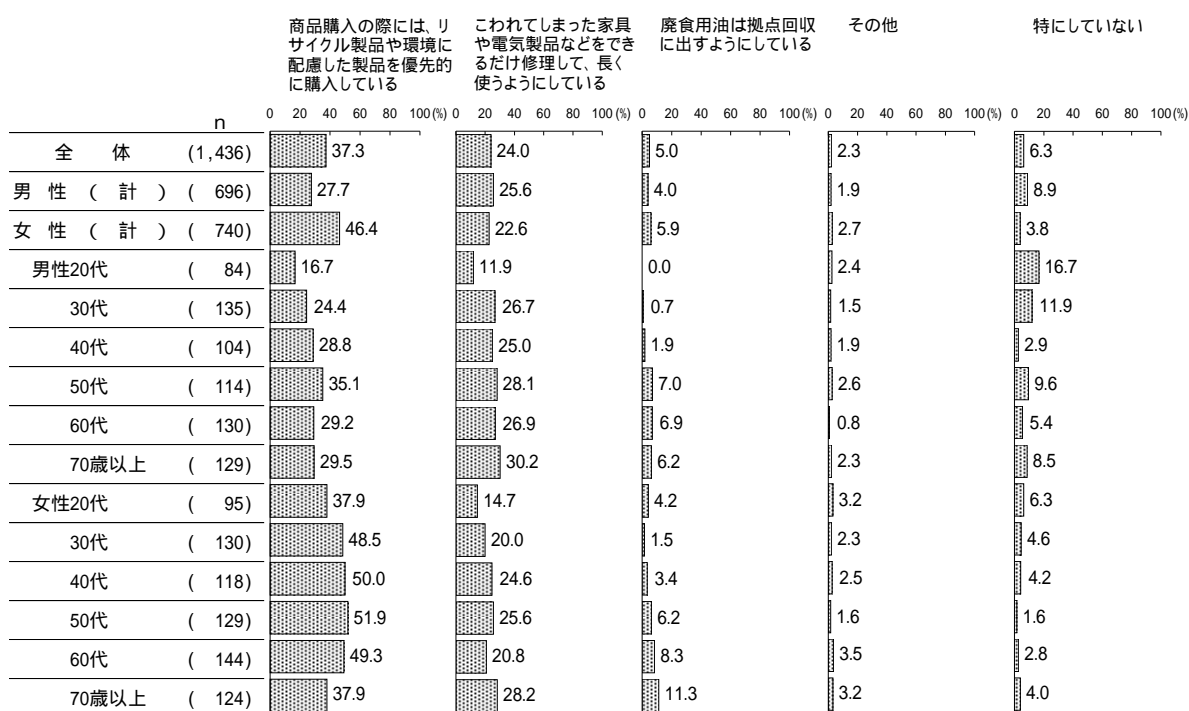
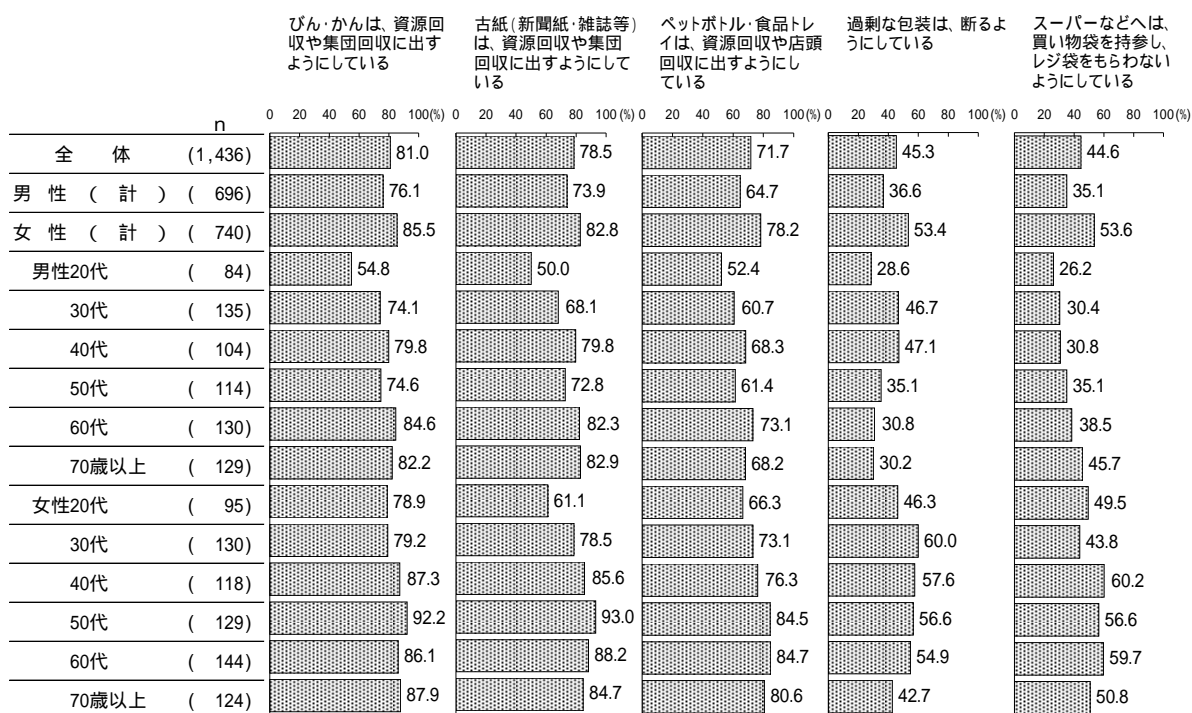
- ・全体で見ると、「びん・かんは、資源回収や集団回収に出すようにしている」(81.0%) が8割を超え最も高く、次いで「古紙 (新聞紙・雑誌等) は、資源回収や集団回収に出すようにしている」(78.5%)、「ペットボトル・食品トレイは、資源回収や店頭回収に出すようにしている」(71.7%) などの順となっている。

[ごみ減量のため工夫していること - 地域行政センター管内別]



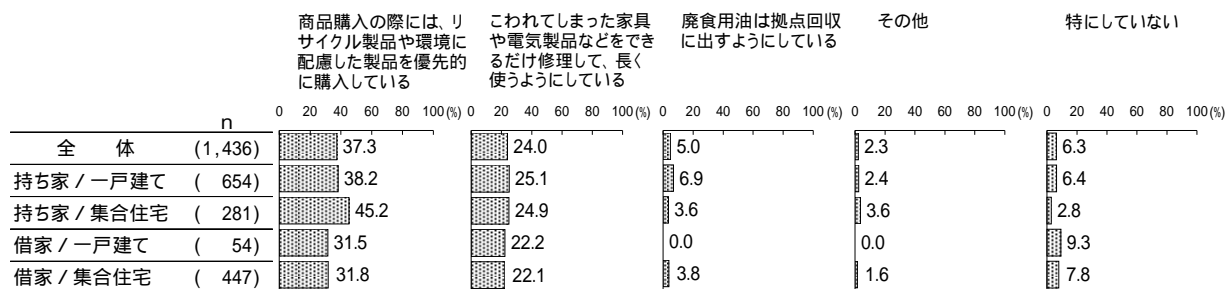
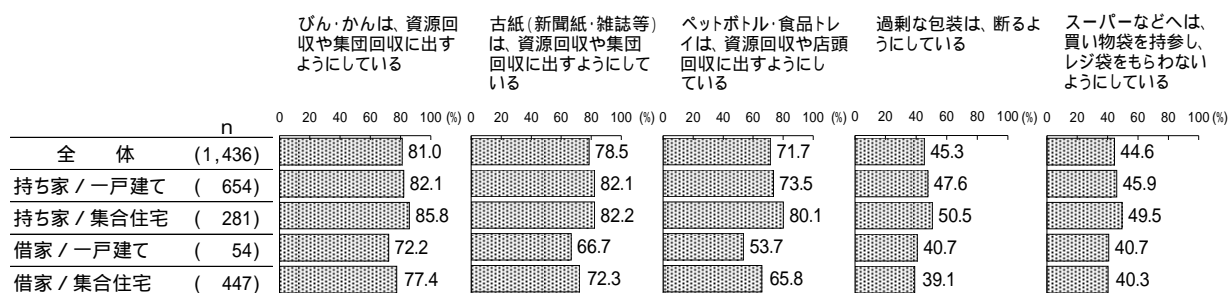
・地域行政センター管内別にみると、「過剰な包装は、断るようになっている」では大田西地域行政センター管内で5割半ば、「スーパーなどへは、買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」では大田南地域行政センター管内で5割を超え他の管内と比べて高くなっている。

[ごみ減量のため工夫していること - 性/年代別]



- ・性別にみると、ほとんどの項目で女性が男性より割合が高くなっているが、特に「スーパーなどへは、買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」では18.5ポイント、「過剰な包装は、断るようになっている」では16.8ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっている。
- ・性/年代別にみると、「びん・かんは、資源回収や集団回収に出すようにしている」では女性50代で9割を超え、「古紙(新聞紙・雑誌等)は、資源回収や集団回収に出すようにしている」では女性の50代と60代で9割前後、「ペットボトル・食品トレイは、資源回収や店頭回収に出すようにしている」でも女性の50代と60代で8割半ばと高くなっている。「過剰な包装は、断るようになっている」では女性の30代から60代で、「スーパーなどへは、買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」では女性の40代から60代で5割半ばから6割となっている。

[ごみ減量のため工夫していること - 住居形態別]



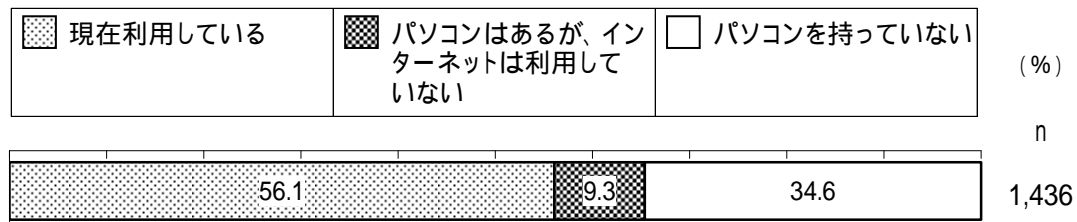
- ・住居形態別にみると、「びん・かんは、資源回収や集団回収に出すようにしている」と「古紙(新聞紙・雑誌等)は、資源回収や集団回収に出すようにしている」では持ち家の一戸建て、持ち家の集合住宅ともに8割を超えている。また、「ペットボトル・食品トレイは、資源回収や店頭回収に出すようにしている」では持ち家の集合住宅で8割と他の世帯と比べて高くなっている。

(9) 自宅でのインターネット利用状況

(全員の方に)

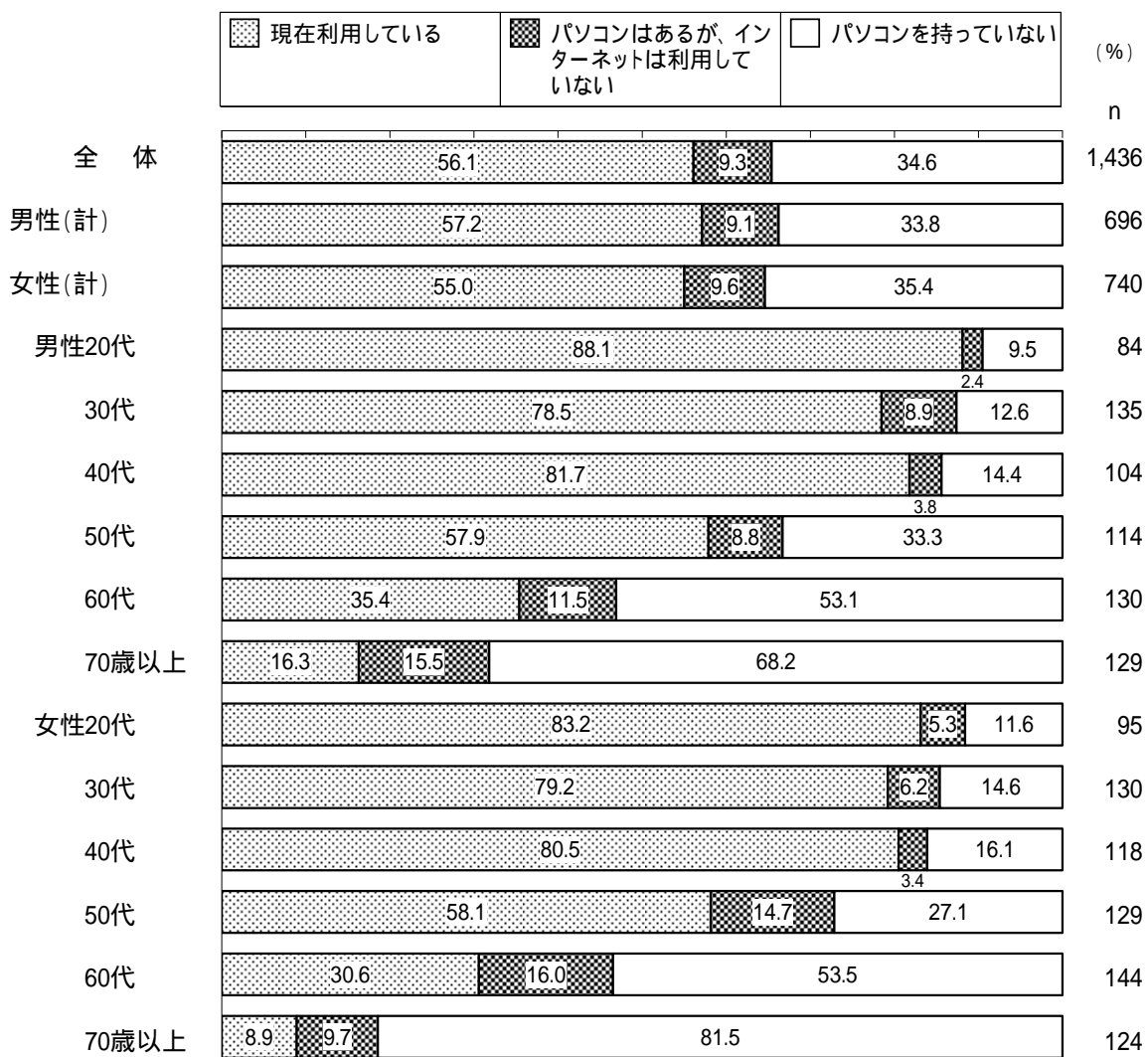
問22. あなたは、ご自宅でインターネットを利用していますか。(1つだけ)

(携帯電話のインターネットサービスは除きます。)



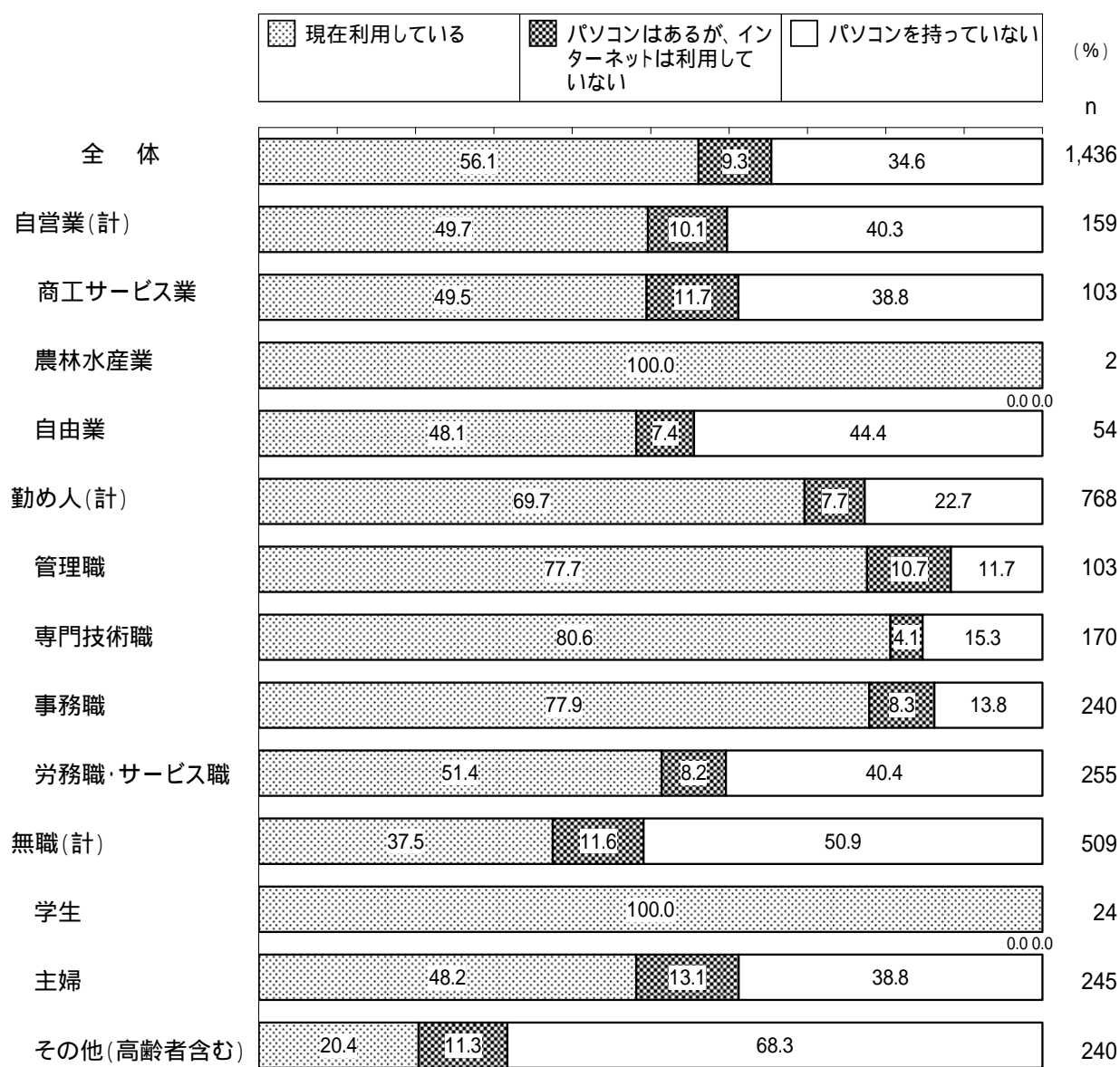
- ・全体でみると、「現在利用している」(56.1%)が5割半ば、「パソコンを持っていない」(34.6%)が3割半ばとなっており、「パソコンはあるが、インターネットは利用していない」は1割に満たない。

[自宅でのインターネット利用状況 - 性/年代別]



- ・性別にみると、男女間で大きな差はみられない。
- ・性/年代別にみると、「現在利用している」では男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性20代では9割近くとなっている。一方、「パソコンを持っていない」では男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性70歳以上では8割を超え特に高くなっている。

[自宅でのインターネット利用状況 - 職業別]

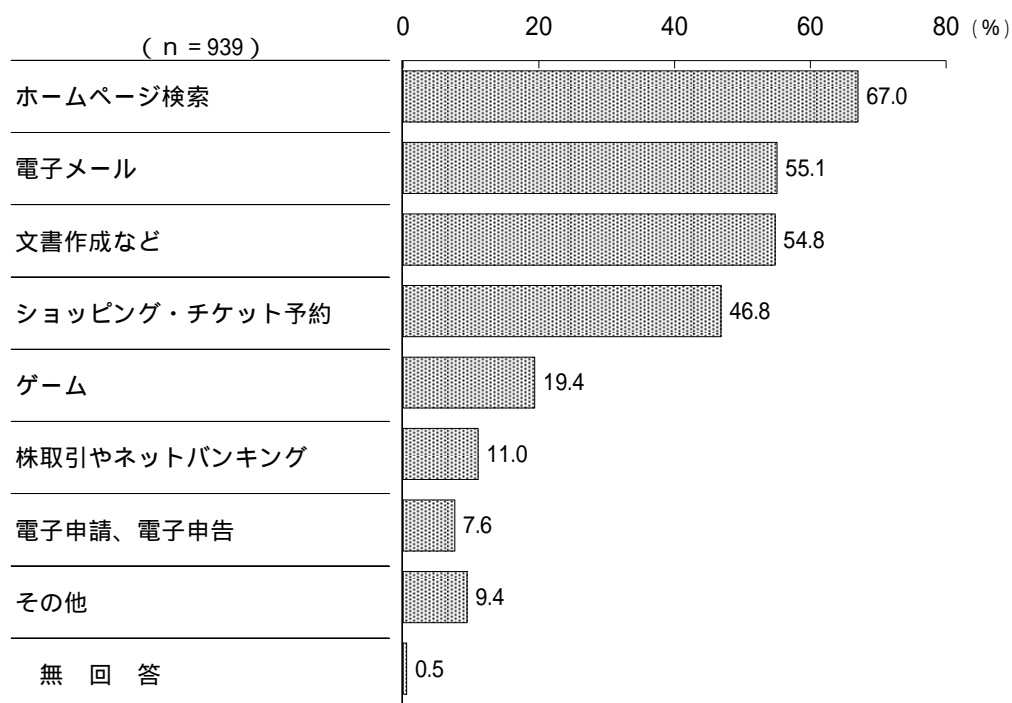


・職業別にみると、「現在利用している」では学生で全員が回答しており、また、『勤め人(計)』で7割と高く、そのうち管理職、専門技術職、事務職では8割前後となっている。「パソコンを持っていない」では『無職(計)』でほぼ5割となっている。

(10) パソコンの利用目的

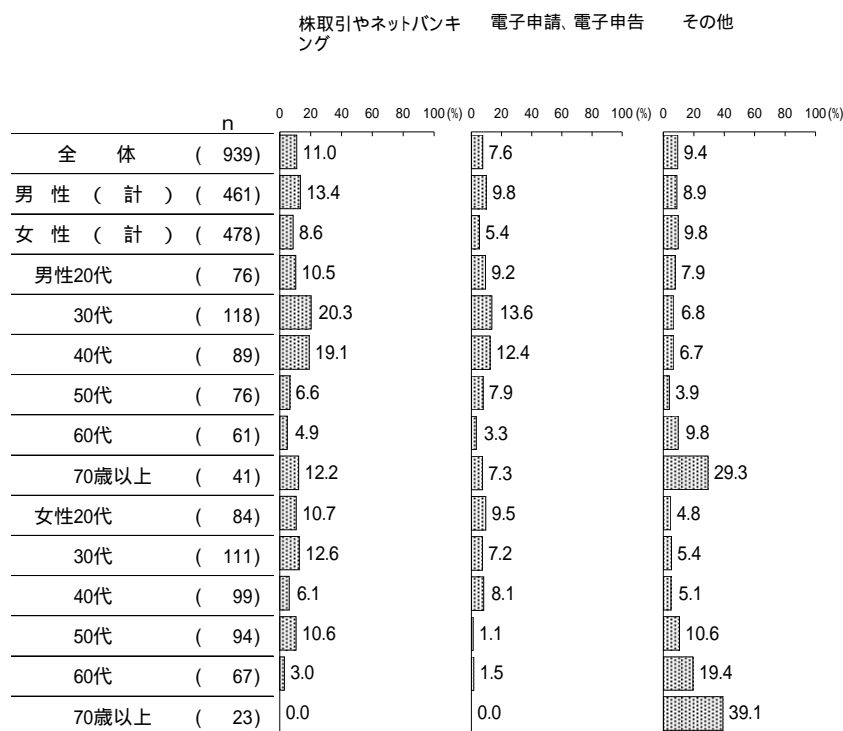
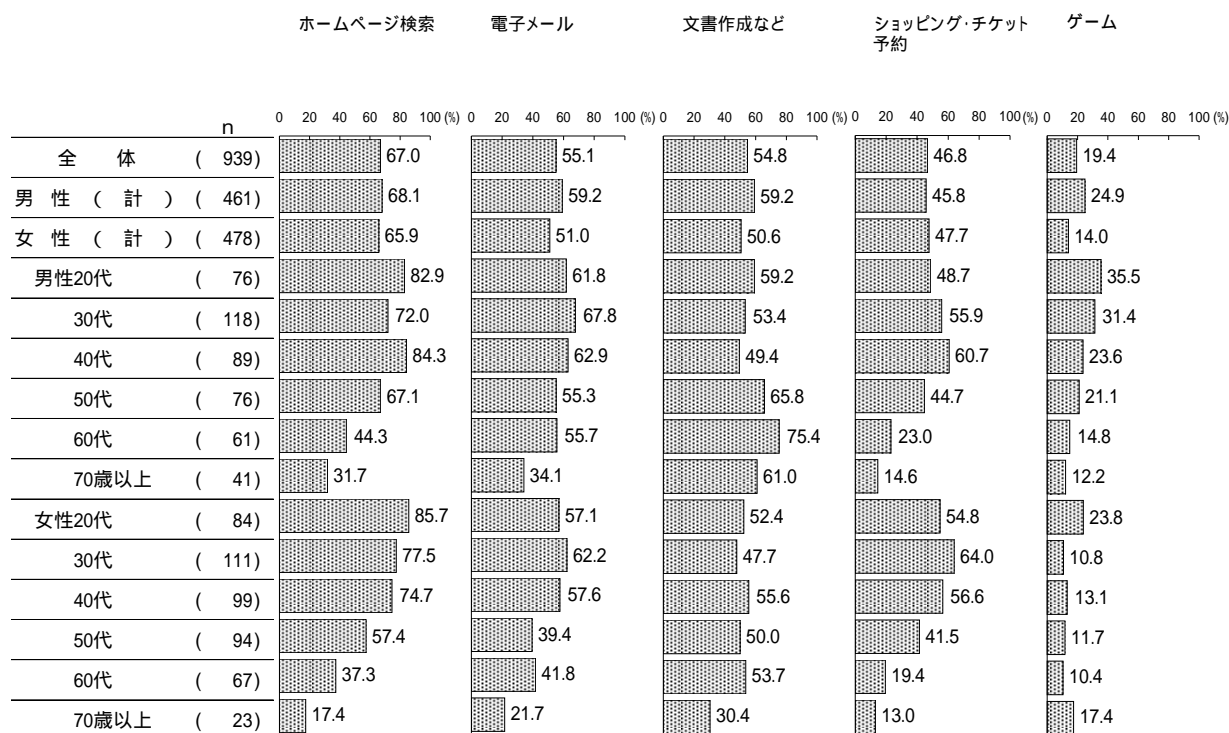
(問 22 で「1 現在利用している」「2 パソコンはあるが、インターネットは利用していない」と回答した方に)

問 22 - 1 . あなたは、パソコンを何に利用していますか。(いくつでも)



・全体でみると、「ホームページ検索」(67.0%)が7割近くと最も高く、次いで「電子メール」(55.1%)、「文書作成など」(54.8%)、「ショッピング・チケット予約」(46.8%)などの順となっている。

[パソコンの利用目的 - 性 / 年代別]



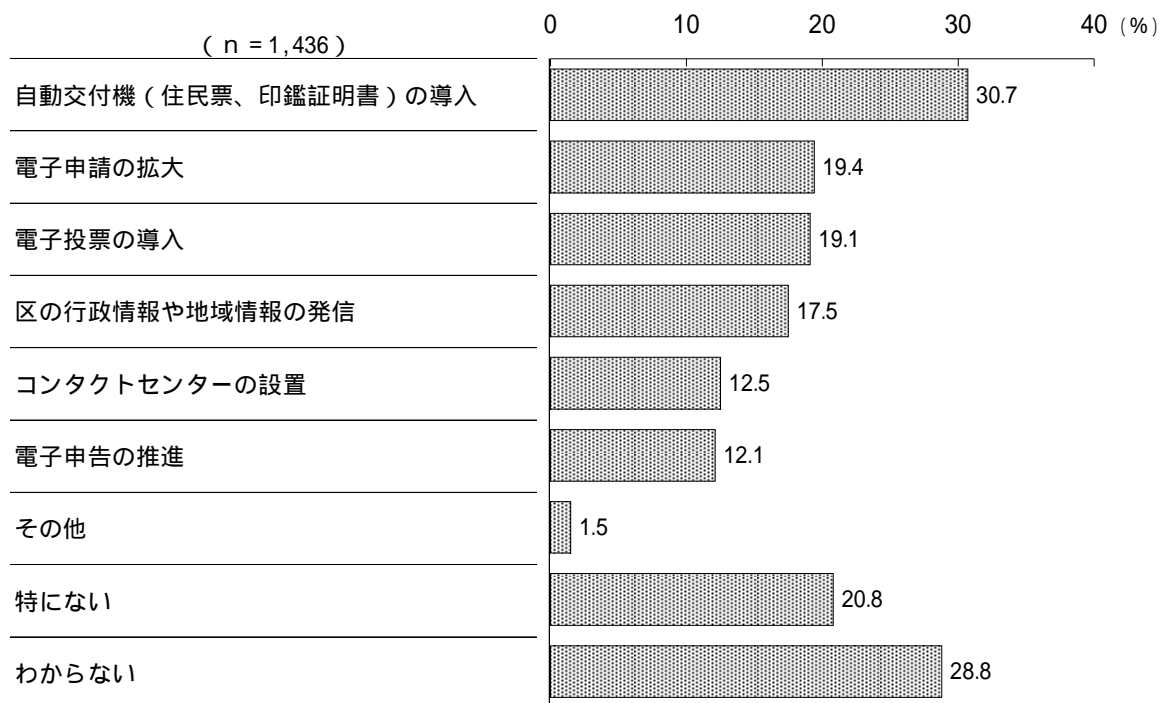
- ・性別にみると、男性が女性より、「ゲーム」では10.9ポイント、「文書作成など」では8.6ポイント、「電子メール」では8.2ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「ホームページ検索」では男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にある。また、「電子メール」では男性30代で7割近く、「文書作成など」では男性60代で7割半ば、「ショッピング・チケット予約」では男性40代と女性30代で6割を超え高くなっている。

(11) 区役所のIT化として取り組むべきこと

(全員の方に)

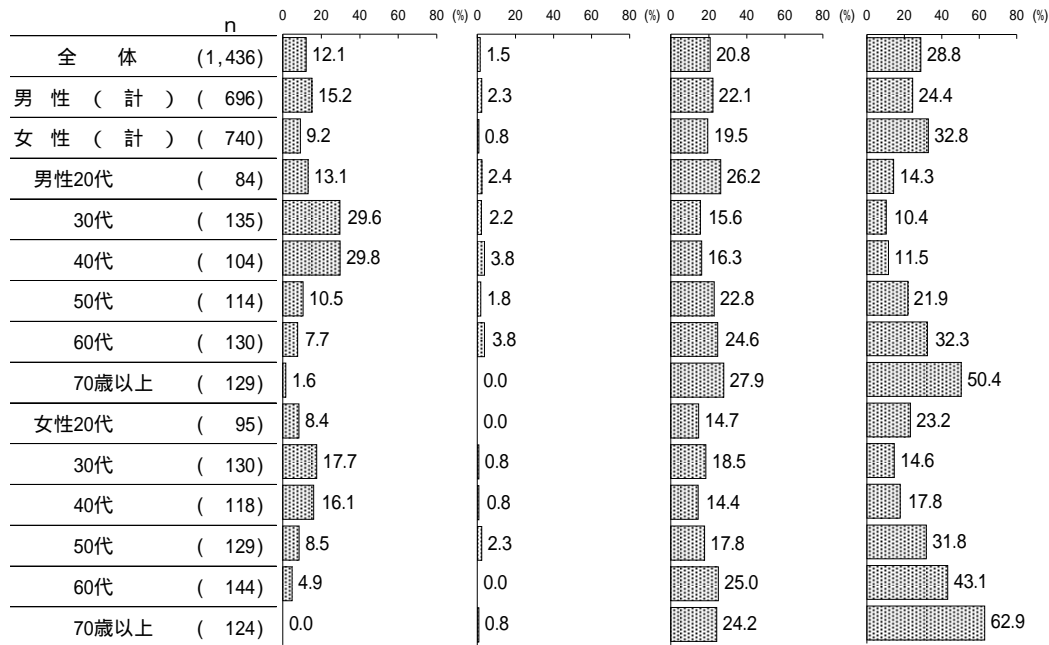
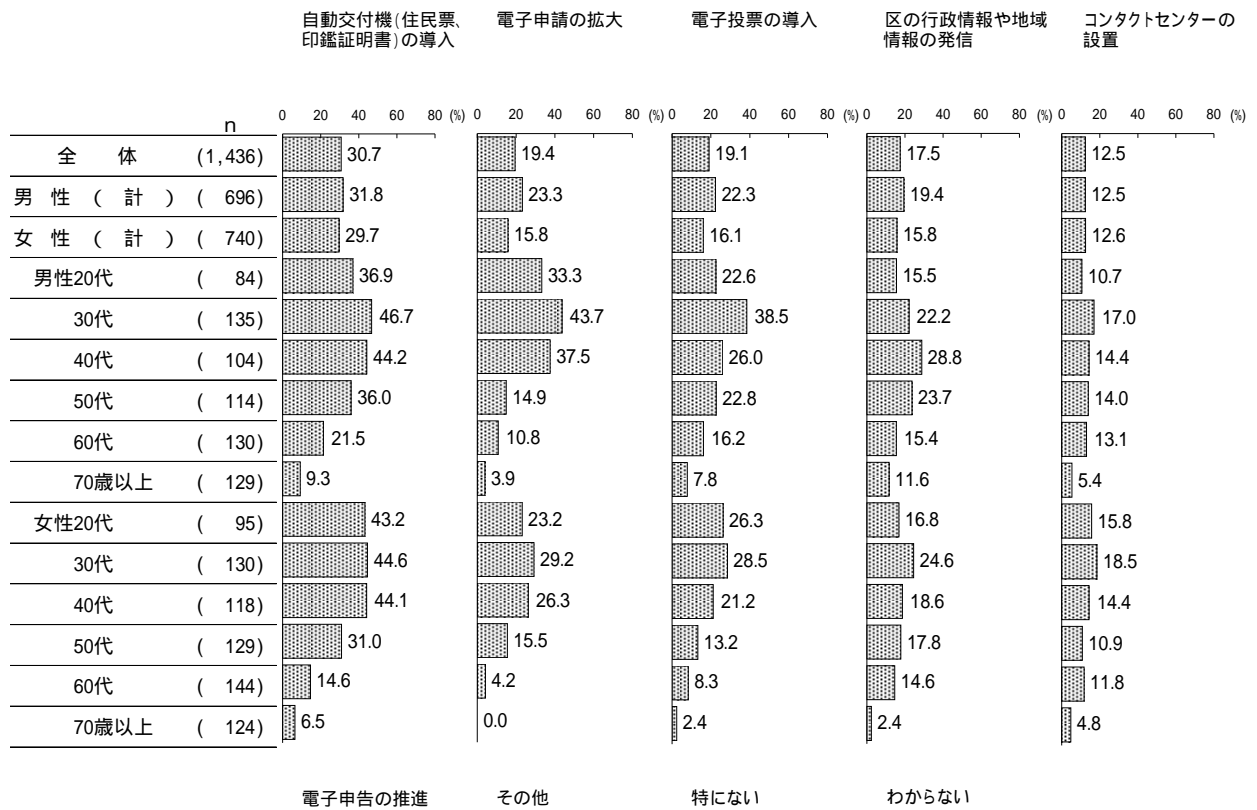
問23. あなたは、大田区役所のIT化としてどのようなことに取り組んでほしいですか。

(いくつでも)



- ・全体で見ると、「自動交付機 (住民票、印鑑証明書) の導入」(30.7%) がほぼ3割と最も高く、次いで「電子申請の拡大」(19.4%)、「電子投票の導入」(19.1%)、「区の行政情報や地域情報の発信」(17.5%)などの順となっている。また、「わからない」(28.8%)が3割近く、「特にない」(20.8%)がほぼ2割となっている。

[区役所のIT化として取り組むべきこと - 性 / 年代別]

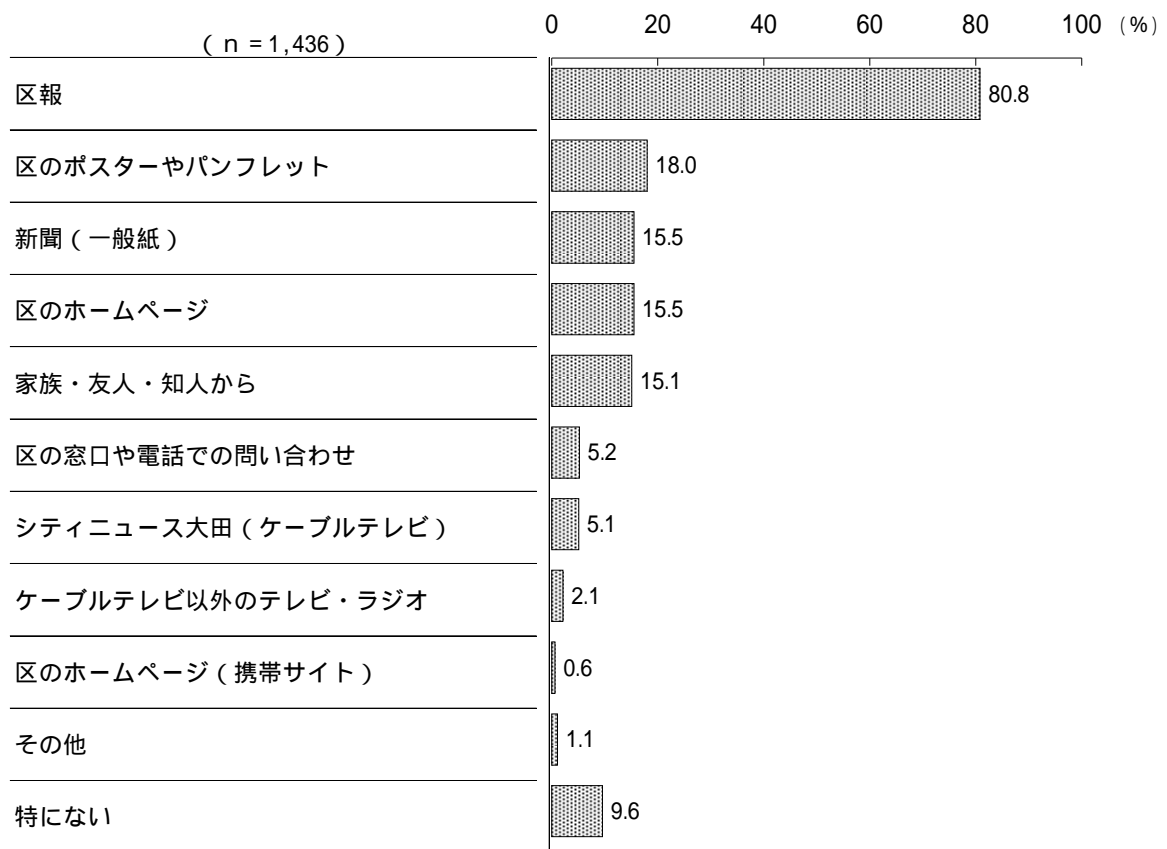


- ・性別にみると、「わからない」では女性が男性より 8.4 ポイント、「電子申請の拡大」では男性が女性より 7.5 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「自動交付機(住民票、印鑑証明書)の導入」では男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にある。「電子申請の拡大」では男性の 20 代から 40 代で 3 割を超え、「電子投票の導入」では男性 30 代で 4 割近くと高くなっている。また、「わからない」では男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性 70 歳以上では 6 割を超え特に高くなっている。

(12) 区の情報を得る手段

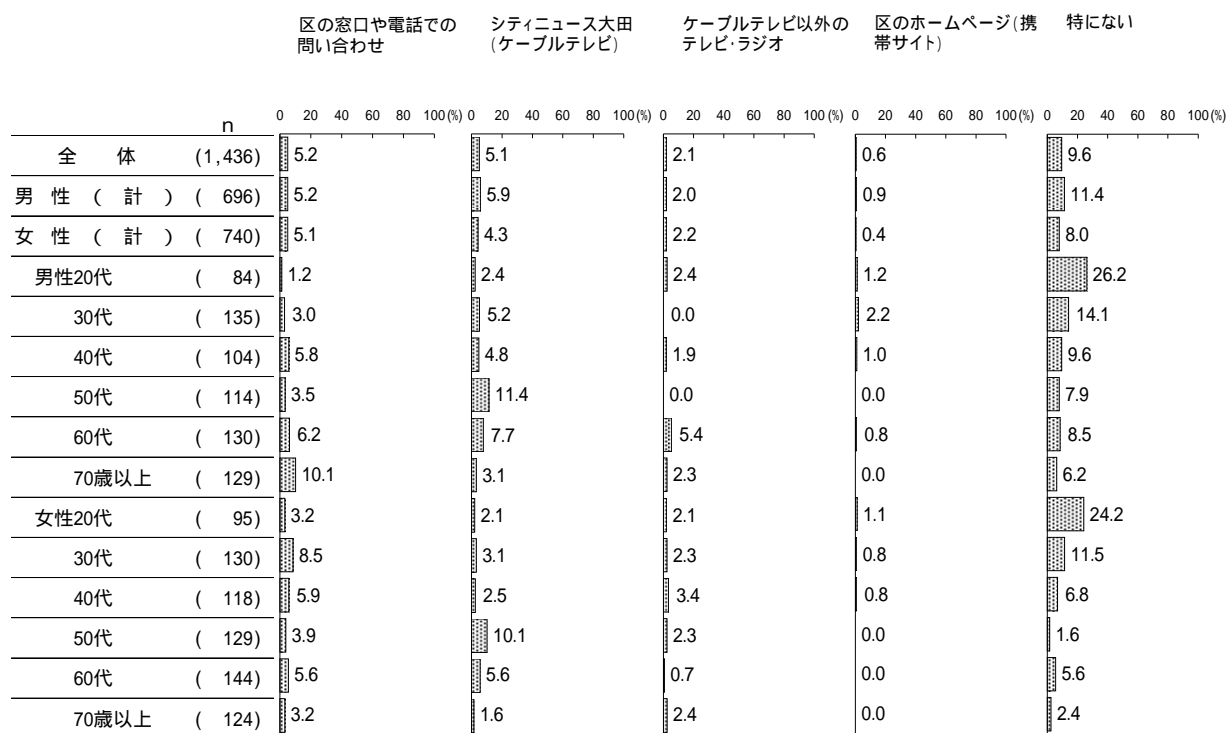
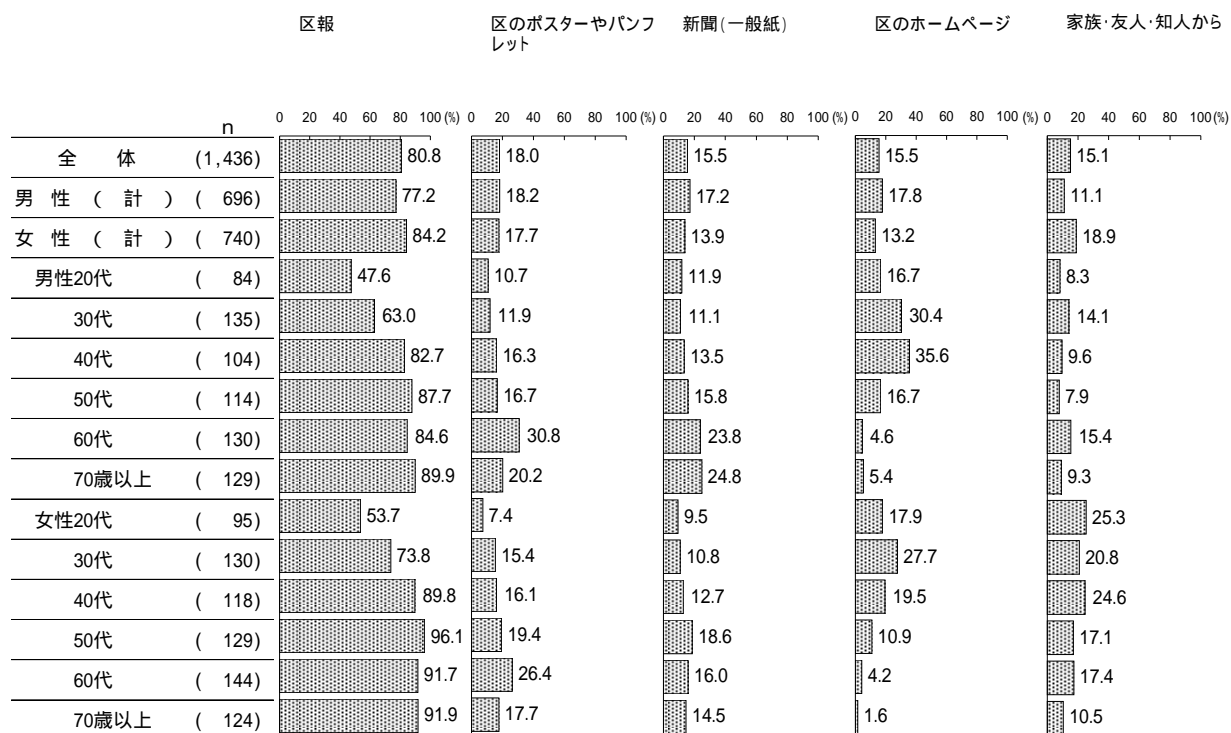
(全員の方に)

問 24. あなたは、大田区の情報をご存知になりますか。(いくつでも)



- ・全体で見ると、「区報」(80.8%)がほぼ8割と特に高く、次いで「区のポスターやパンフレット」(18.0%)、「新聞(一般紙)」(15.5%)、「区のホームページ」(15.5%)、「家族・友人・知人から」(15.1%)などの順となっている。

[区の情報を得る手段 - 性 / 年代別 (上位 10 項目)]

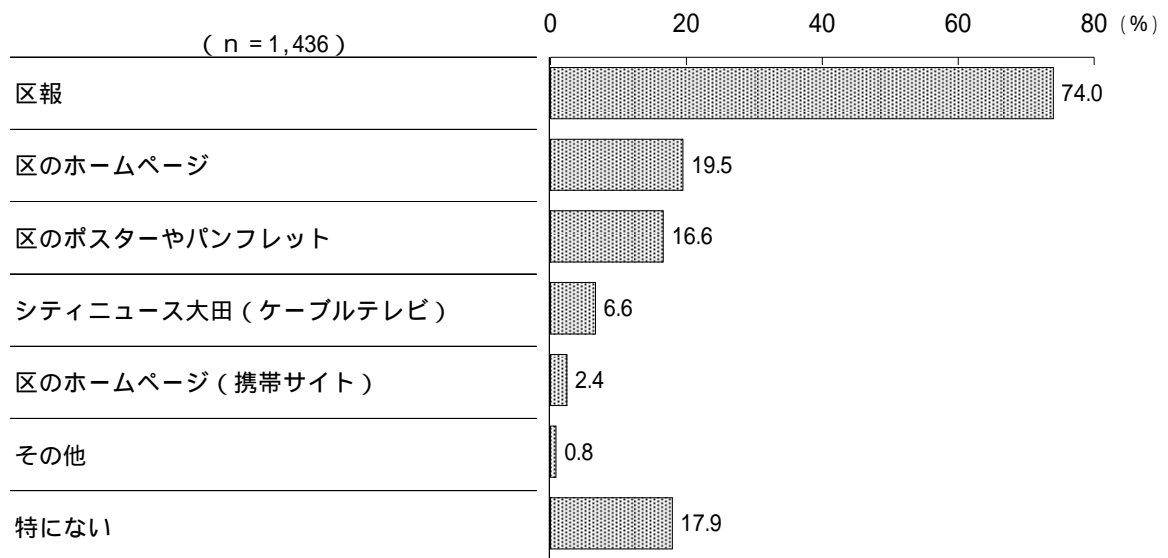


- ・性別にみると、「家族・友人・知人から」では女性が男性より7.8ポイント、「区報」でも女性が男性より7.0ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「区報」では女性の50代以上で9割を超え高くなっている。「区のポスターやパンフレット」では男女とも60代で3割前後、「区のホームページ」では男性の30代と40代で3割を超え、女性30代で3割近くと他の年代と比べて高くなっている。また、「特にない」では男女とも20代で2割半ばと他の年代と比べて高くなっている。

(13) 今後利用したい区の広報媒体

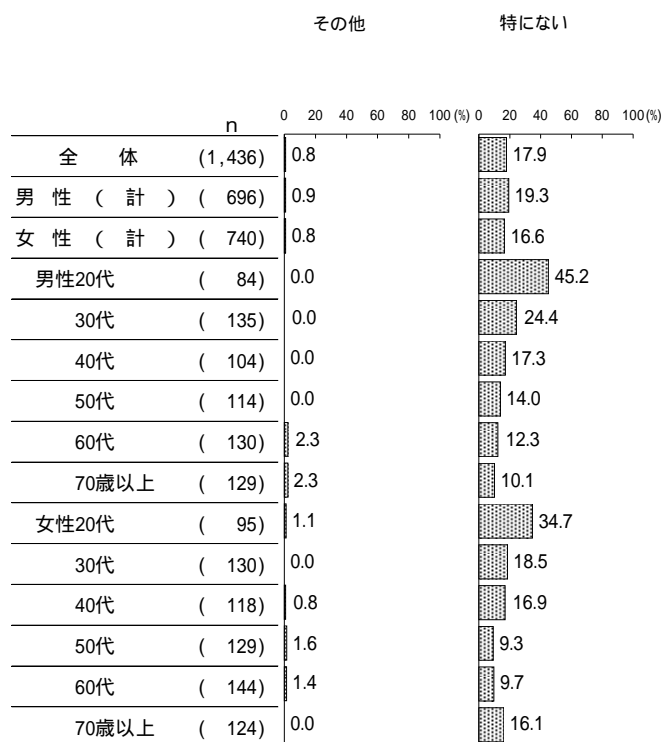
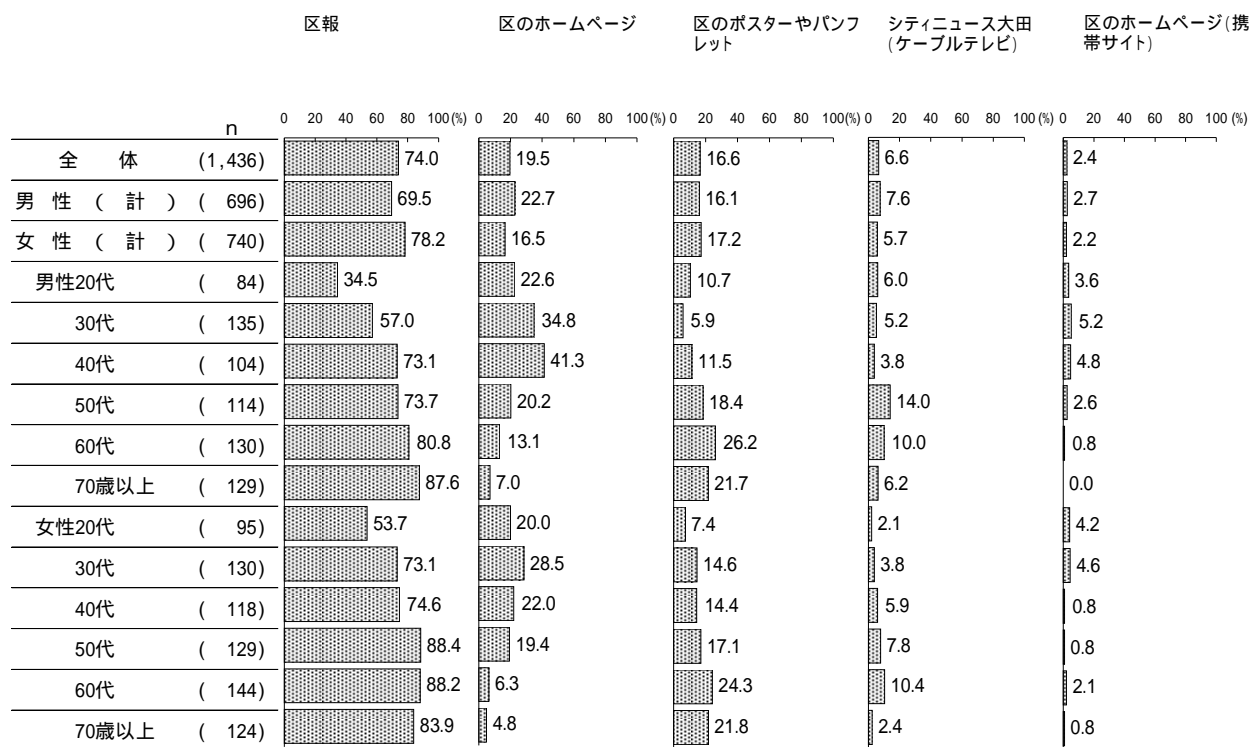
(全員の方に)

問 25. あなたが、これからも読みたい(見たい)区の広報媒体は何ですか。(いくつでも)



- ・全体で見ると、「区報」(74.0%)が7割半ばと特に高く、次いで「区のホームページ」(19.5%)、「区のポスターやパンフレット」(16.6%)などの順となっている。また、「特にない」(17.9%)が2割近くとなっている。

[今後利用したい区の広報媒体 - 性 / 年代別]



- ・性別にみると、「区報」では女性が男性より 8.7 ポイント、「区のホームページ」では男性が女性より 6.2 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「区報」では女性の 50 代と 60 代で 9 割近くと高く、男性でも高い年代ほど割合が高い傾向にある。「区のホームページ」では男性の 30 代と 40 代で 3 割を超え、「特にない」では男女とも 20 代で 3 割半ばから 4 割半ばと他の年代と比べて高くなっている。

(14) 区報の入手先

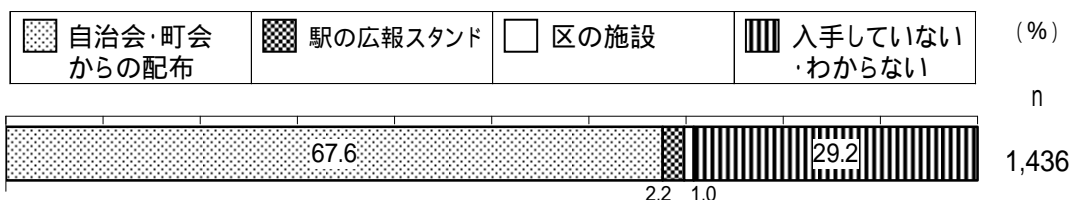
(全員の方に)

問 26 . 大田区では、区報を毎月3回(1日、11日、21日)発行しています。

あなたは、区報をどのように入手していますか。それぞれの号についてお答えください。

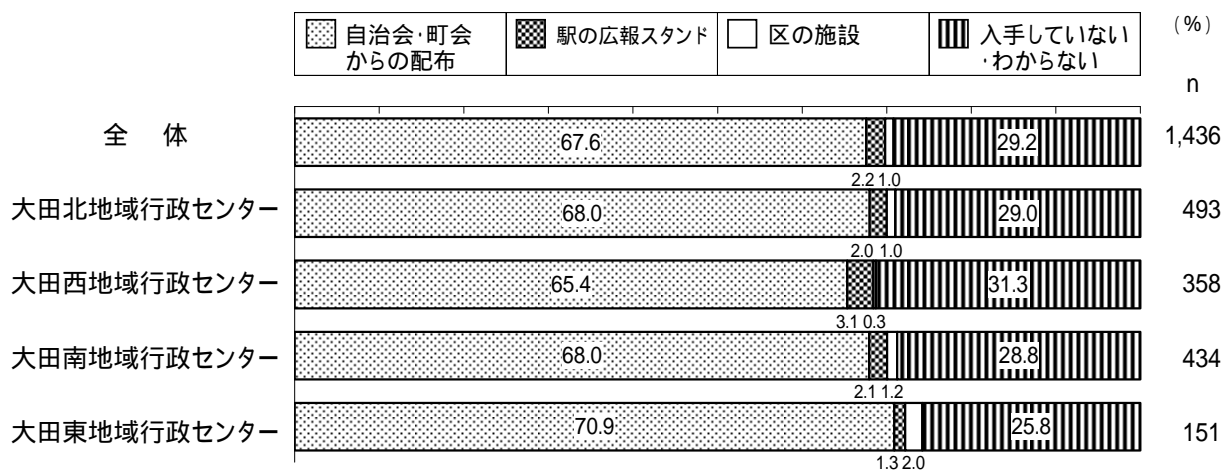
(それぞれ主なもの1つずつ)

[区報の入手先 < 1日号 >]



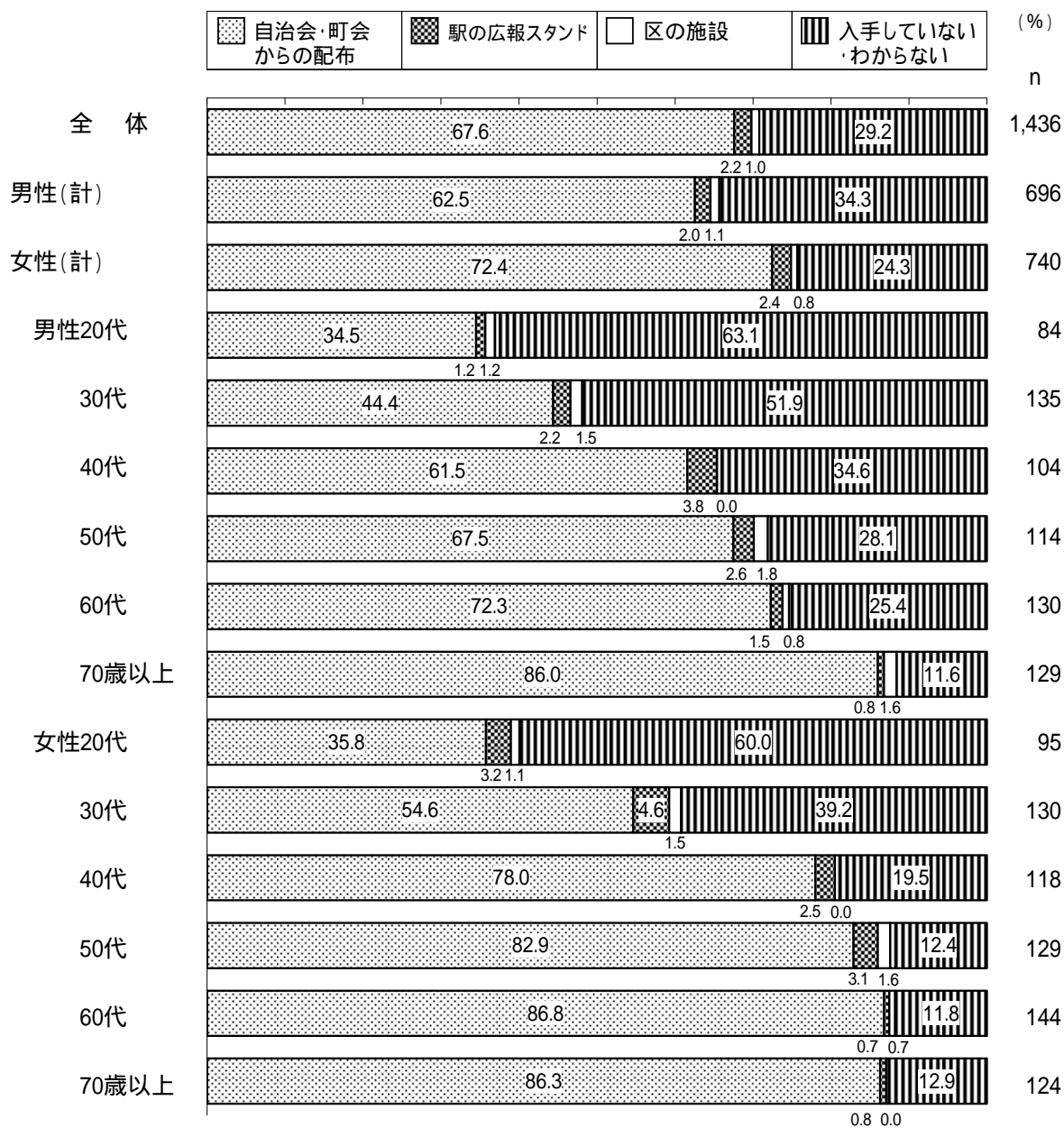
- ・全体でみると、「自治会・町会からの配布」(67.6%)が7割近くと特に高く、「駅の広報スタンド」(2.2%)と「区の施設」(1.0%)はわずかとなっている。また「入手していない・わからない」(29.2%)がほぼ3割となっている。

[区報の入手先 < 1日号 > - 地域行政センター管内別]



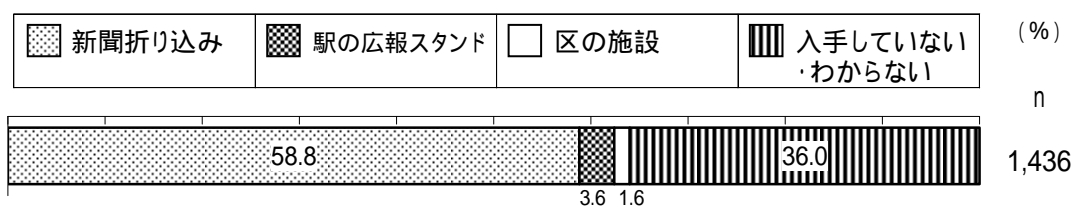
- ・地域行政センター管内別にみると、「自治会・町会からの配布」では大田東地域行政センター管内でほぼ7割となっている。

[区報の入手先 < 1日号 > - 性 / 年代別]



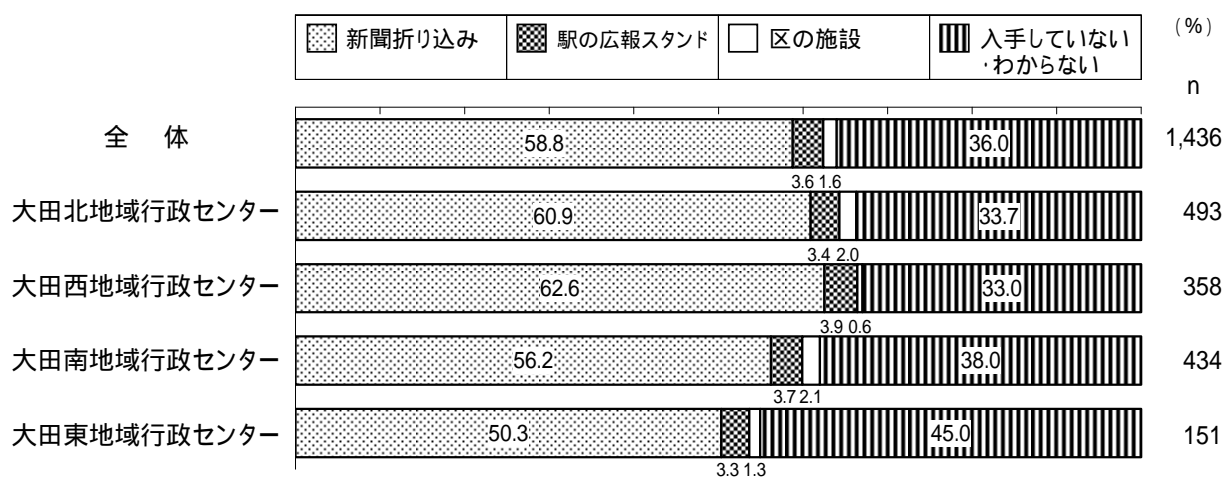
- ・性別にみると、「入手していない・わからない」では男性が女性より 10.0 ポイント、「自治会・町会からの配布」では女性が男性より 9.9 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「自治会・町会からの配布」では男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性 70 歳以上と女性の 50 代以上で 8 割を超え高くなっている。

[区報の入手先 < 11 日号 >]



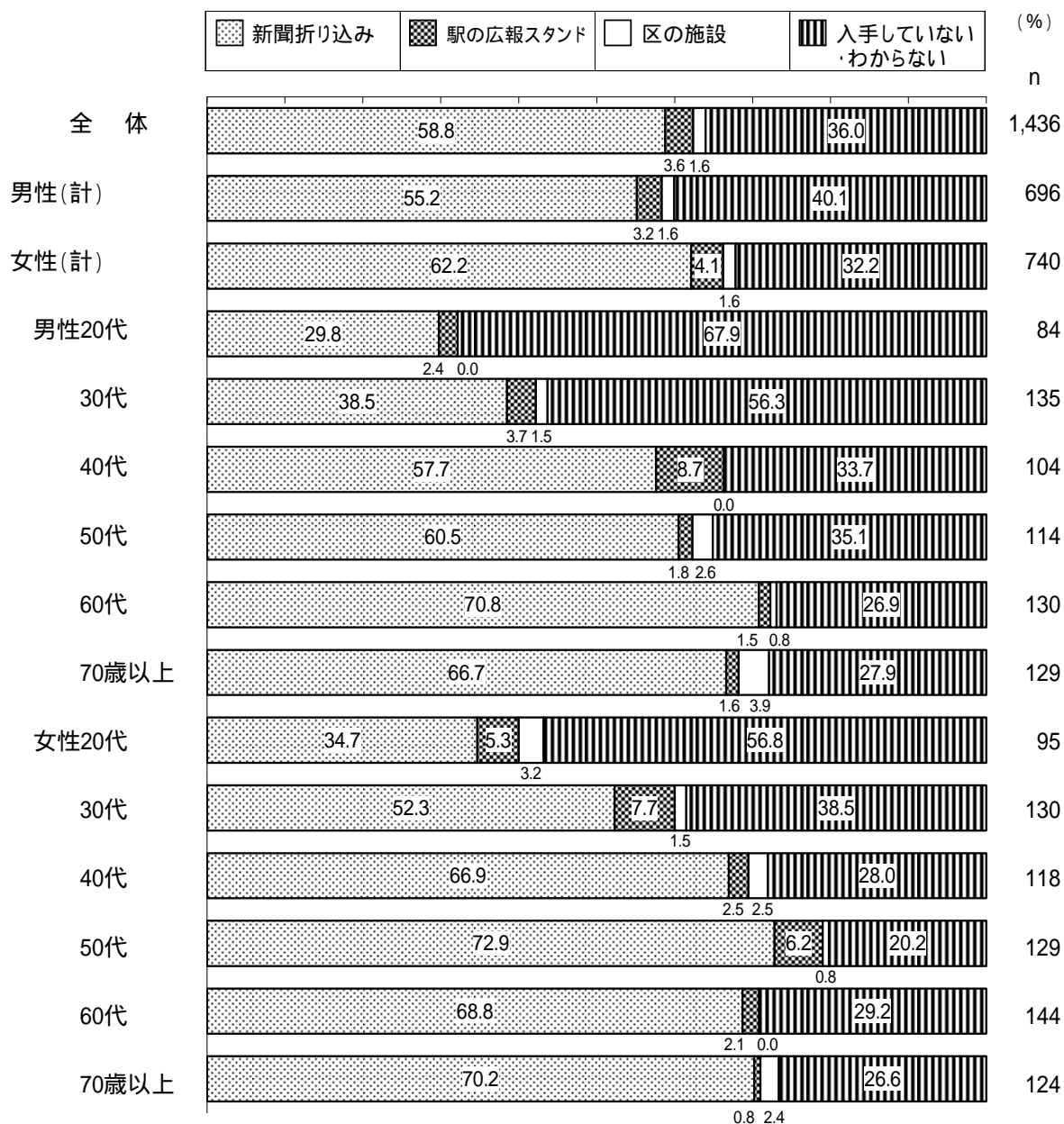
・全体でみると、「新聞折り込み」(58.8%)が6割近くと高く、「駅の広報スタンド」(3.6%)と「区の施設」(1.6%)はわずかとなっている。また「入手していない・わからない」(36.0%)が3割半ばとなっている。

[区報の入手先 < 11 日号 > - 地域行政センター管内別]



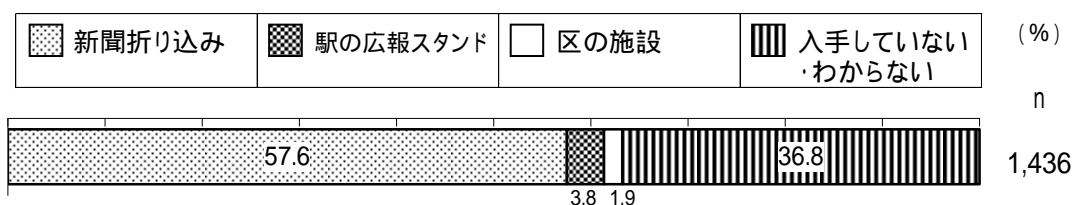
・地域行政センター管内別にみると、「新聞折り込み」では大田北地域行政センター管内と大田西地域行政センター管内で6割を超えている。

[区報の入手先 <11 日号> - 性 / 年代別]



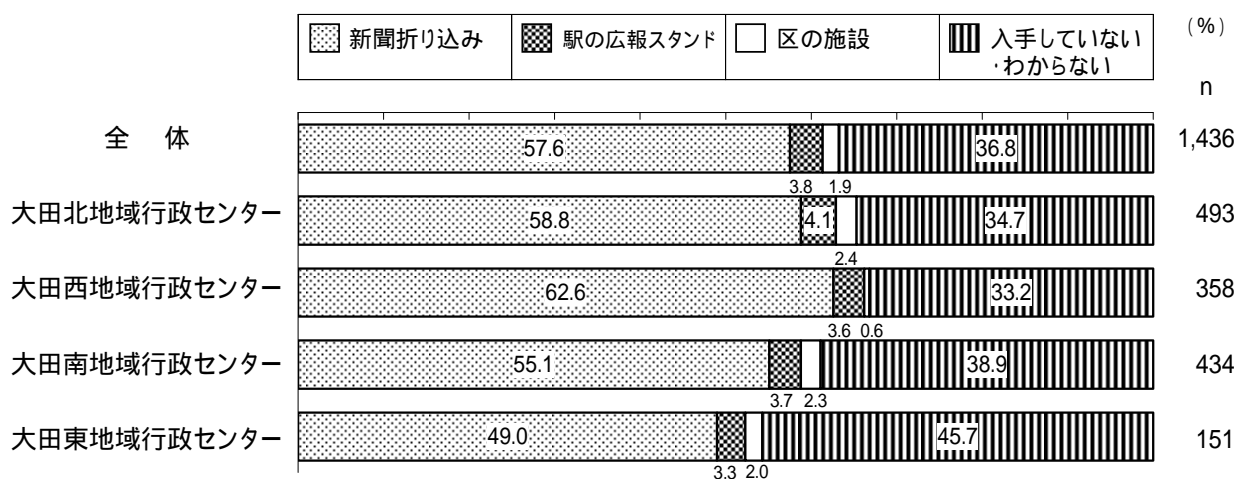
- ・性別にみると、「入手していない・わからない」では男性が女性より 7.9 ポイント、「新聞折り込み」では女性が男性より 7.0 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「新聞折り込み」では女性 50 代以上で 7 割前後と高く、また、男性でも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性 60 代でほぼ 7 割となっている。「入手していない・わからない」では男性 20 代で 7 割近くと高くなっている。

[区報の入手先 < 21 日号 >]



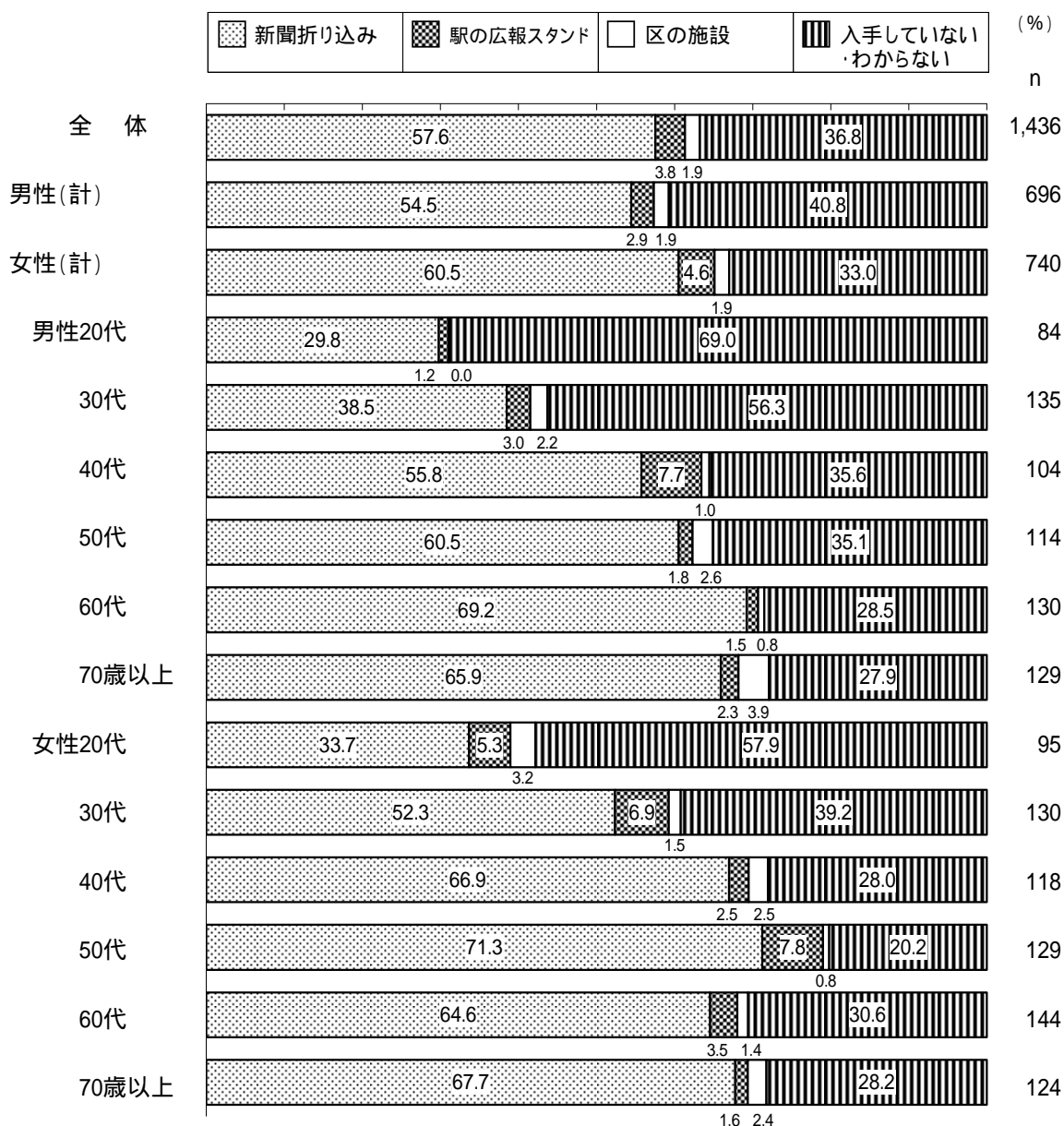
・全体でみると、「新聞折り込み」(57.6%)が6割近くと高く、「駅の広報スタンド」(3.8%)と「区の施設」(1.9%)はわずかとなっている。また「入手していない・わからない」(36.8%)が4割近くとなっている。

[区報の入手先 < 21 日号 > - 地域行政センター管内別]



・地域行政センター管内別にみると、「新聞折り込み」では大田西地域行政センター管内で6割を超えている。また、「入手していない・わからない」では大田東地域行政センター管内で4割半ばとなっている。

[区報の入手先 <21 日号> - 性 / 年代別]

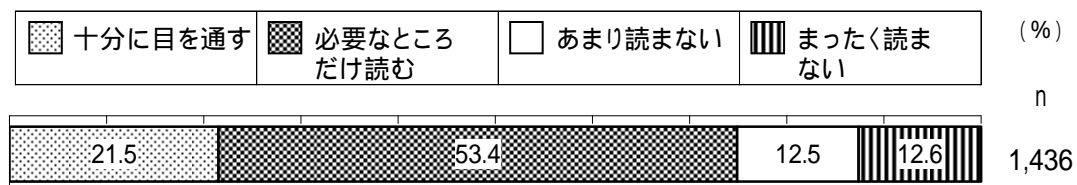


- ・性別にみると、「入手していない・わからない」では男性が女性より 7.8 ポイント高く、「新聞折り込み」では女性が男性より 6.0 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「新聞折り込み」では女性 50 代で 7 割を超え高く、男性では高い年代ほど割合が高い傾向にある。また、「入手していない・わからない」では男性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性 20 代ではほぼ 7 割と高くなっている。

(15) 区報の閲読状況

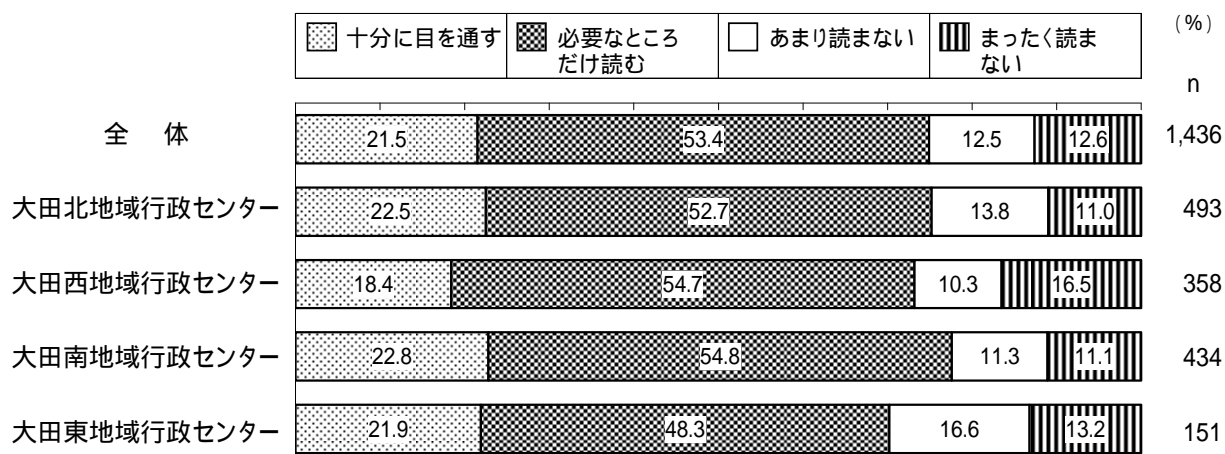
(全員の方に)

問 27. あなたは区報をどの程度読んでいますか。(1つだけ)



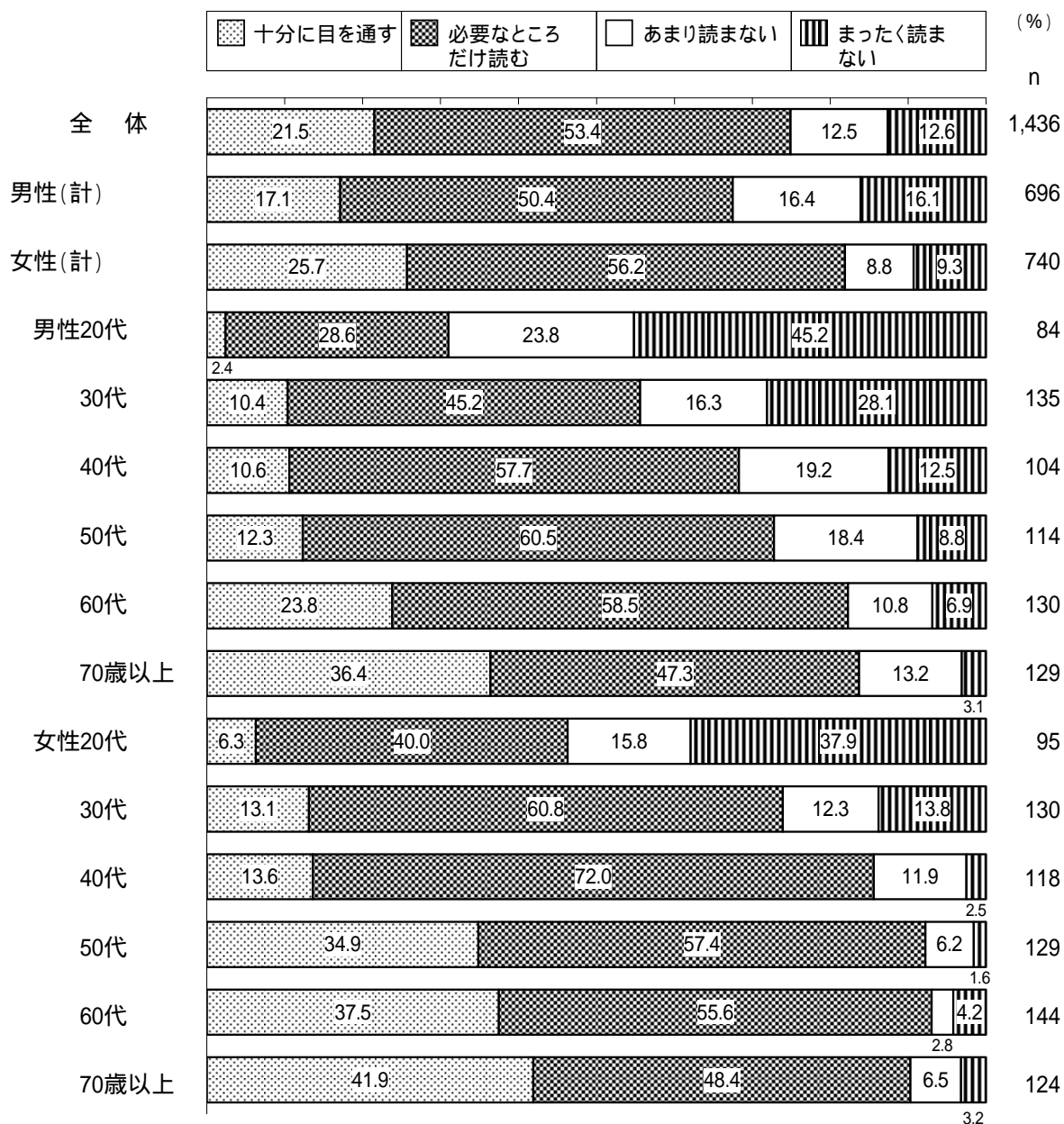
・全体でみると、「十分に目を通す」(21.5%)と「必要なところだけ読む」(53.4%)を合わせた『読む(計)』(74.9%)が7割半ばで、「あまり読まない」(12.5%)と「まったく読まない」(12.6%)を合わせた『読まない(計)』(25.1%)は2割半ばとなっている。

[区報の閲読状況 - 地域行政センター管内別]



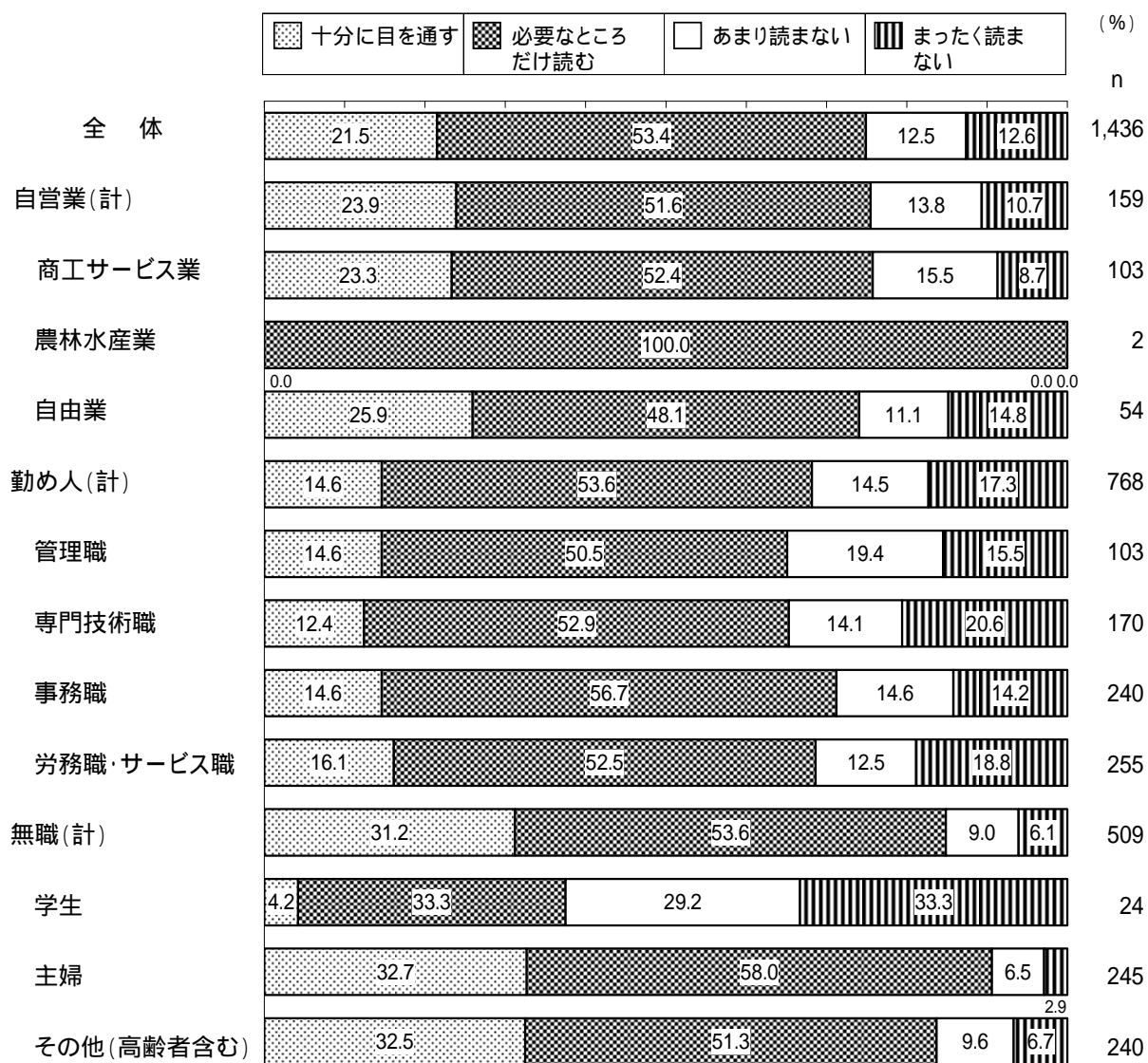
・地域行政センター管内別にみると、「十分に目を通す」と「必要なところだけ読む」を合わせた『読む(計)』では大田南地域行政センター管内で8割近くとなっている。また、「あまり読まない」と「まったく読まない」を合わせた『読まない(計)』では大田東地域行政センター管内で3割となっている。

[区報の閲読状況 - 性 / 年代別]



- ・性別にみると、「十分に目を通す」では女性が男性より 8.6 ポイント、「あまり読まない」では男性が女性より 7.6 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「十分に目を通す」では男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性 70 歳以上では 4 割を超えている。「必要なところだけ読む」では女性 40 代で 7 割を超え高く、「あまり読まない」では男性 20 代で 2 割を超え、「まったく読まない」では男女とも 20 代で 4 割前後と他の年代と比べて高くなっている。

[区報の閲読状況 - 職業別]



・職業別にみると、「十分に目を通す」では『無職(計)』で3割を超え高くなっている。また、「まったく読まない」では学生が3割を超え高くなっており、『勤め人(計)』では2割近くで、そのうち専門技術職と労務職・サービス職で2割前後となっている。